

熊本地震



第3章

被災施設からの報告

1.市民会館シアーズホーム夢ホール(熊本市市民会館)

2.宇土市民会館

3.熊本県立劇場

4.熊本市男女共同参画センターはあもにい

5.益城町文化会館

12.くまもと森都心プラザ

13.嘉島町民会館

14.宇城市松橋総合体育文化センター(ウイングまつばせ)

17.熊本産業展示場(グランメッセ熊本)

※上記の会館は、被害が大きかった館の中から、特徴的な復旧・復興の対応を行ったケースを取り上げています。
※報告内容は、平成29年10月時点のものです。

1.市民会館シアーズホーム夢ホール (熊本市市民会館)

(報告)辻 信太郎

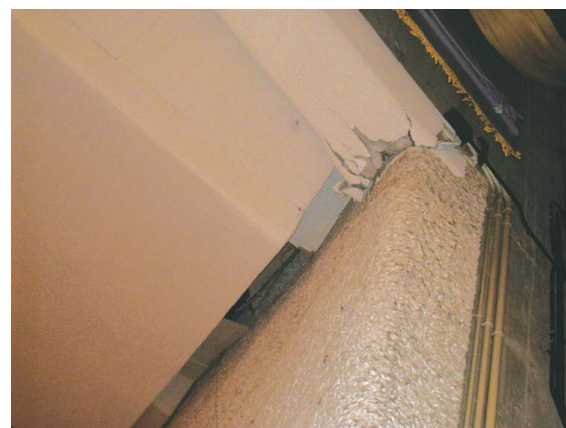
1 発災当時

平成28年4月14日、21時26分前震。

熊本市市民会館の利用は会議室のみで利用客は10名ほど。「テーブルの上にお茶がこぼれたので、何か、拭くものを貸してください」といった電話連絡が受付に入った程度で、さしたる混乱はなかった。災害時のマニュアル通りに、「危険ですので館外に避難してください」との声掛けにも、館内に動揺は見られなかった。しかし1階受付、そして中2階の事務所、湯沸室では、キャビネット、食器棚などが転倒し、ガラスや什器類は割れ、書類などは散乱していた。

22時30分には館長および館長補佐が被害状況を確認するため緊急出勤。会館周辺では、近隣住民が屋外避難している状況が伺え、避難者の受け入れも検討したが、余震も続き、会館の損傷状態が不明のため、受け入れは行なわなかった。このような状況の下、上記2名は事務所待機した。

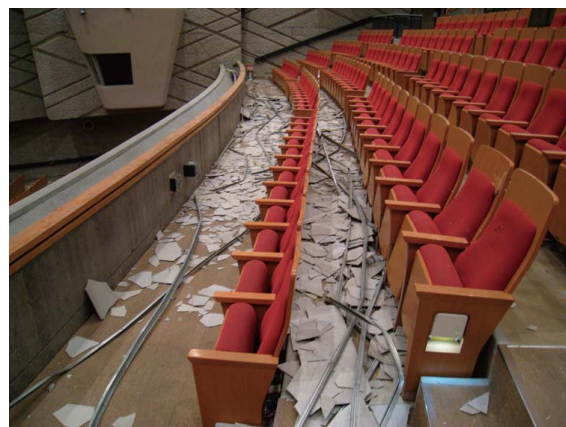
明けて15日午後、市都市建設局営繕課の立入被害調査で、大ホールプロセニウム天井部材の破損状況から、「ホールの天井はすべて落とすことになるだろう。再建は東日本大震災後の新基準で、構造計算する必要があるでしょう」との見解が示される。



舞台下手よりプロセニウム端を見上げる 緞帳下端の房が見える

4月16日、1時25分本震。

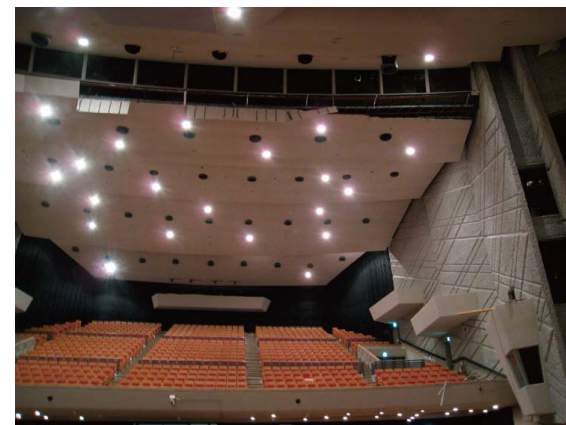
夜間であり、会館内は無人。停電し、自家発電設備も起動。夜が明けて調査に入ると、前震時とは比較にならない大きな被害が見られた。客席上部、シーリング・スポット通路周囲の天井部材が落下し、客席約10席が大破していた。天井の材料はラスモルタルで1㎡あたり約80キロの重さがあり、これが公演時であったらと考えると、胸がつぶれる思いであった。



大ホール2階客席



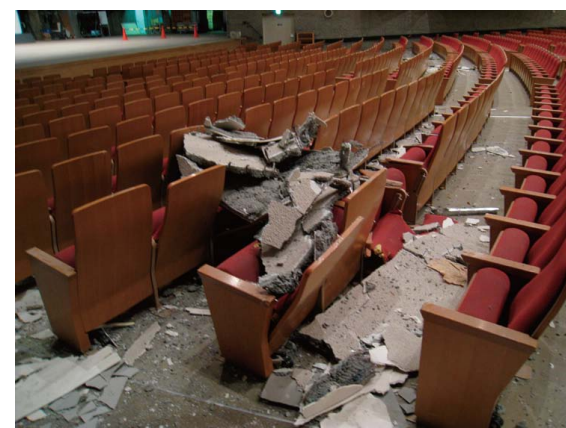
大ホール舞台状況



大ホール天井部材落下箇所



大ホール1階客席破損

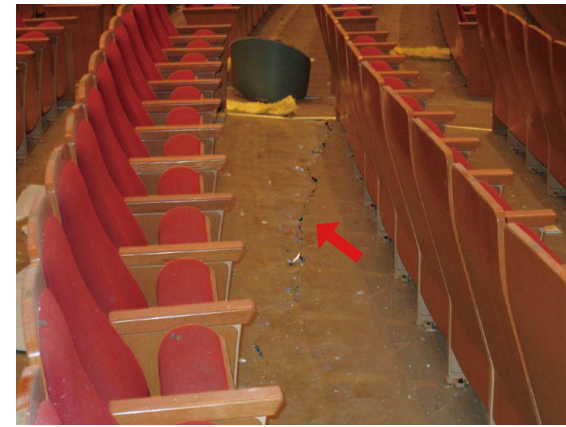


大ホール1階客席破損

その他、主な被害としては、架台基礎部分の地盤沈下による受水槽の傾斜、排水管の破断、大ホール客席床および展示ロビー床の亀裂および不陸、会館北側・擁壁通路の陥没、煙突避雷針の破断落下、前庭のタイルのめくれやひび割れなど不陸箇所多数、大ホール搬入口車庫のブレース破断が確認された。



受水槽傾斜



大ホール客席床亀裂

1.市民会館シアーズホーム夢ホール(熊本市市民会館)



会館北側擁壁陥没



前庭不陸



会議棟中2階湯沸室食器棚転倒

3 復旧へ向けて

市民会館の営業は中止しているものの、周囲は歩行者の通行量が多い場所であるため、安全を考慮して5月12日から18日にかけて、会館前庭の不陸の緊急修理を、また5月24日には、同様の理由で大ホール搬入口車庫のブレース修理を行なった。

6月10日より、佐藤総合計画による本格的な被害調査がはじまる。中・小会議室については安全が確認され、7月1日より営業再開、大会議室・展示ロビーについては9月1日より営業再開。大ホールの諸設備についても調査がはじまり、舞台機構については軽微な損傷は見られたが、吊りものや迫り、音響反射板などの大型可動設備については、機能確保されていることが判明した。照明や音響設備についても同様の結果が得られた。

調査の際の、瓦礫の処理や機材の移動など、埃まみれの作業が思い出される。

建築本体についても躯体の損傷が軽微であることが判明したため、9月6日からは佐藤総合計画により復旧工事の実施設計がはじまった。



落下天井部材や空調吹出口などの瓦礫

4 被災後の取り組み

【自主事業関係】

地震の被害により、当館を含め市内の主要な文化施設に被害が出たため、当初の事業計画の変更が必要になった。

中止が想定された事業もあったが、文化芸術による復興の一助及び市民の癒しとなるよう、会場変更や事業の見直しを行い、復興支援事業を企画した。また、会場を熊本県立劇場の協力を得て、4事業を実施した。主な事業は以下のとおり。

●7月15日、22日、29日、8月12日

「スマイル・フェスティヴォ!熊本地震復興応援コンサート」(熊本市内4か所の避難所での様々なジャンルによる出張無料コンサート)。

●10月16日

熊本復興に向けての協同プロジェクト～『響きあう夢コンサート2016熊本』(熊本市国際交流会館、熊本市植木文化ホールにて、東京藝術大学 澤学長指揮、北九州市の響ホール室内合奏団などの演奏によるコンサート)。

●12月3日から4日まで

プロジェクト大山熊本公演「それでも おどって」
市民会館を会場とした、地震後初めての自主事業。市民会館大会議室特設ステージにて、国内で活躍する熊本出身でダンサー・振付家の古家優里さんが主宰するダンスユニット「プロジェクト大山」によるコンテンポラリーダンス公演。

2 被害調査

4月19日には市営繕課の応急危険度判定が実施され、「要注意」判定。

上記の判定を受け、4月20日、大ホールを使用中止とし、公式発表。大ホールは被害が甚大で立ち入りは全面規制。会議棟は、一見被害はないように思えるものの、地震の大きさから、専門家のしかるべき調査で安全が確保されない限り、貸出不可とした。地震発生時点での予約件数1,243件を全てキャンセル手続き開始。

そのような状況の中、4月25日には市民会館の設計者である株式会社佐藤総合計画の建築士と構造担当の2名が自主的に駆けつけ、余震が続く中で、天井裏に至るまで被害状況を調査。詳細調査が必要との見解が示された。

佐藤総合計画は、平成18年の大規模改修の際も、耐震診断および設計を行っており、会館としては、設計業者や施工業者を把握し、連絡を取っておくことが重要だと思われる。

4月28日からは、行政関係者のみ入館を認め、全国の政令都市から応援に駆けつけてくださった被害調査員(最大200名程度)の事務所として大・中・小会議室を使用。また地震で使用不可となった熊本城総合事務所や人材育成センターが、第1～第3楽屋を仮事務所として使用した。

1.市民会館シアーズホーム夢ホール(熊本市市民会館)

(熊本県立劇場に会場変更した事業)

●9月21日

「アイラブくまもと・漱石の四年三ヵ月」熊本公演
「アイラブくまもと・漱石の四年三ヵ月制作上演委員会」との共催。夏目漱石生誕150年祭の記念事業として、熊本と新宿で実施。漱石が熊本で過ごした4年3ヵ月を描いた創作劇。

●1月18日から19日まで

劇団四季こころの劇場ミュージカル「エルコスの祈り」
市内小学6年生を無料招待しミュージカルを2日間にわたって公演。

●2月9日

ニッセイ名作シリーズ2016
不思議の国のアリスのクラシックコンサート「アリスの作曲★大作戦」
市内小学生を無料招待し、ニッセイ劇場企画での九州交響楽団によるオペラ・クラシックコンサートを公演。

●3月30日

「2017くまもと・高校生演劇祭」
演劇を志す高校生による演劇コンクール。

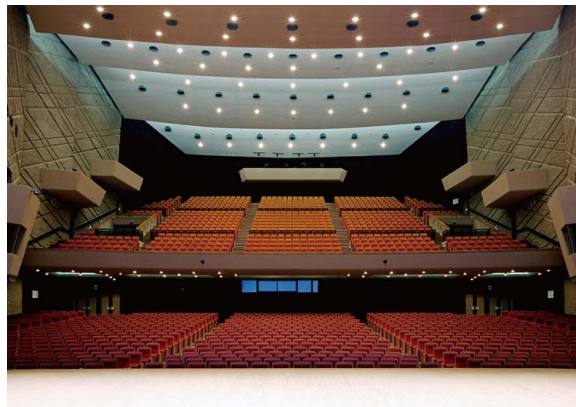
5 復旧工事開始・今後の見通し

復旧工事実施設計が平成29年2月6日に終わり、工事期間については、熊本の2大ホールである熊本県立劇場と熊本市市民会館の同時閉館を避けることを申し合わせ、平成29年4月から12月と設定した。

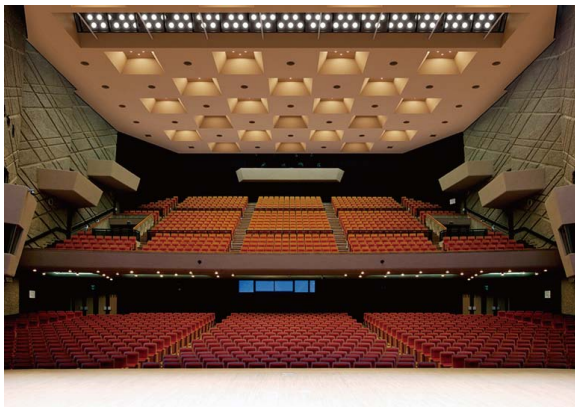
これにより平成29年3月31日までで全ての貸出を中止し、4月1日より本格的な復旧工事を開始した。復旧工事は被災部分の現状復旧が基本であるが、大ホール天井は、東日本大震災後に出来た新たな耐震基準を満たす必要があり、構造変更され、それに伴い天井の景観も一変した。

設計の基本的コンセプトは、安全性の向上(吊り天井を改め、立体トラス工法による落下防止天井への変更)ホール性能の向上(音響、照明効果等の向上)特徴ある劇場空間の創造(本丸御殿の格天井をイメージさせるデザイン)であり、施工前後の主な違いは下表の通りである。

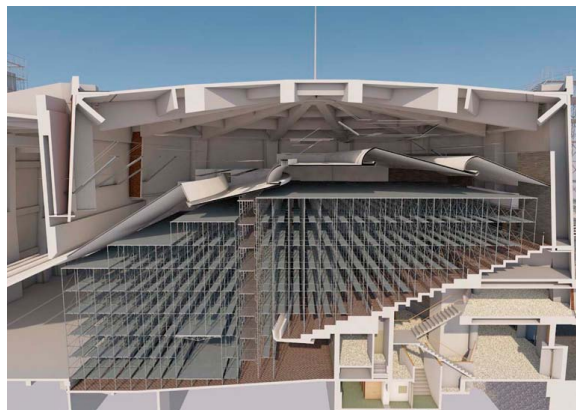
	施工前	施工後
構 造	吊り天井	立体トラスに直張り天井
形 状	アーチ状に5分割	格天井に似た凹凸
材 質	ラスモルタル	石膏ボード・ケイカル板(不燃材)
重 量	天井板80kg/㎡、全体130kg/㎡	天井板20kg/㎡、全体71kg/㎡(45%軽量化)
安全性	高い天井を用いて火災時の避難時間を確保	さらに上方に天井を設置
音 響	残響時間1.9秒(空席時、500Hz)	同左 (反射音はホール全体に到達)
照 明	シーリング・スポット1段	シーリング・スポット2段 照射角度を見直し奥行きを3.5m延長
省エネ	白熱灯照明(客席)	LED照明(客席)の採用により省電力化



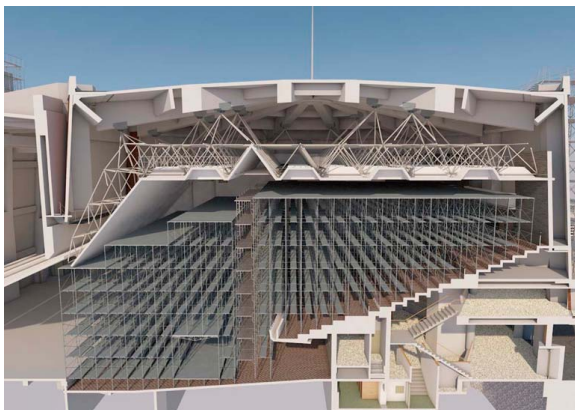
大ホール改修前



大ホール改修後



大ホール改修前 足場計画断面図



大ホール改修後 足場計画断面図

上記2枚のCGは西松建設株式会社 提供

7月上旬には、会館の精密な躯体調査により、特別な状況も見られなかったことから、特段の事情が発生しない限り工期延長等はないと判断し、営業再開は、市民会館開館50周年となる平成30年1月と決定した。8月からは、ホールの予約受付を再開、本来なら13ヵ月前から申込みことができる(例えば、平成30年1月利用分は平成28年12月の申込み)が、経過措置として、2ヵ月分ずつの予約を受け付けることとした。そのまま、本来の申込みルールを用いると、9ヵ月分の予約を一斉に受け付けることとなり、利用者及び施設側の両方に混乱が予想されたからである。この経過措置の結果、予約窓口での混乱は見られず、また、懸念された施設の利用率も平年並みの水準であった。

2.宇土市民会館

(報告)高木 恭二/高田 大介

1 はじめに

公立文化施設として大事なことは、快適で心地よいホール・会議環境を整えることであるが、最も重要なのは来館いただいているお客様・出演者などの安全性をいかに確保するかなどと思っている。ところが今回の地震で当館ではまさにその局面に関わるような場に遭遇することになってしまった。

地震(前震)が起こった平成28年4月14日(木)21時26分、舞台では10人近い若者が熱心に太鼓を叩き練習が行われていた。ところが大きな揺れと共に、天井(ぶどう棚)から、こぶし大のコンクリート片、ナットなどが落下してきたのである。

練習中のメンバーは太鼓リーダーの「外に逃げよう!」の一言で、全員が舞台裏の出入口から退去し事なきを得た。いつも会館を使っている団体であるため、最短距離で館外に逃げ出せたために人的被害がなかったのである。その判断には感謝したい。舞台利用だけの自主的避難ではあったが、大ホールに多くの入場者がいる催し、時間帯でなかったことは、本当に良かった。

宇土市民会館での「平成28年熊本地震」はこのようにして始まり、幾多の紆余曲折を経ながら1年6か月過ぎたが、現在でもその影響は少なからず残っている。

以下、時間の経過や動きに沿って当館が受けた被害や影響について概観していく。

2 会館施設の概要

- ①会館は、昭和47年6月に開館した県内でも古い公立文化施設の一つであり、平成29年6月をもって開館から45年を迎えた。この間に音響やホール座席の取り替えなど、二度ほどの大規模改修を実施してきている。
- ②平成19年7月からは約1年かけて耐震補強工事を実施し、楽屋増築やリニューアル工事も実施している。しかしその後起こった東日本大震災の耐震基準見直しによって、大ホール特定天井の改善の指示が出され、併せてエレベーターの安全基準についても改善の指示を受けているが、現在なお未改修のままである。
- ③会館は市の第2次避難所となっており、市の要請によっては対応することになっているが、今回は隣接の中学校が避難所となったために、会館は避難所にはならなかった。
- ④会館運営の担当窓口は市教育委員会文化課であり、指定管理に関する担当は企画部企画課。
- ⑤会館は、平成20年4月から「NPO法人宇土の文化を考える市民の会」が指定管理者となった。それ以降現在まで、3期10年に亘って指定管理者として運営を行っている。

3 地震被害の概要

会館は、全体としては一つの建物であるが、大きくはホール棟と会議室棟に分かれており、会議室棟の1階にボイラー室やギャラリーもある。(⇒…)は、地震後の対応内容。

①ホール棟

- ホール客席プロセニウムスピーカー周りの天井材が落下。(⇒応急修理)
- ホール客席の天井板が数か所破損し、落下。



プロセニウムスピーカー被害

- 三点吊りマイク・舞台エレベーターマイクの破損。
- 舞台綱元ガイドシュウの金具変形。(⇒修復)

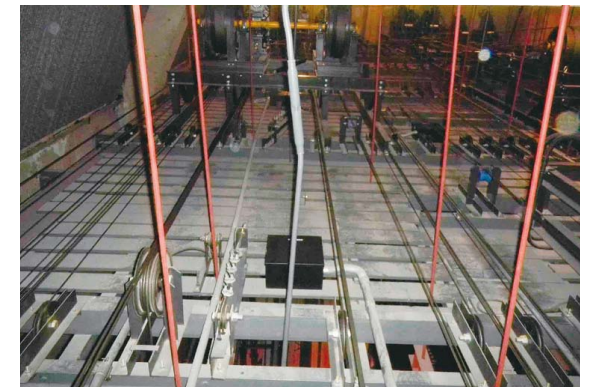


ガイドシュウ変形破損



プロセニウム応急工事

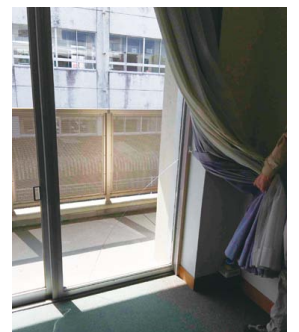
- 舞台天井すのこ部固定用ボルトの破損(9か所)。(⇒修復)
- 舞台天井すのこ部耐震補強用吊りボルトの変形(47か所)。(⇒修復)
- 照明器具等転倒、破損。
- ホールピンスポット2台落下・破損。スポットルーム窓ガラスの破損。(⇒ピンスポット2台新規取り替え、ガラス修復)
- ホール棟数か所のガラスひび割れ、壁面ひび割れ数か所あり。



すのこ吊りボルト変形

②会議室棟

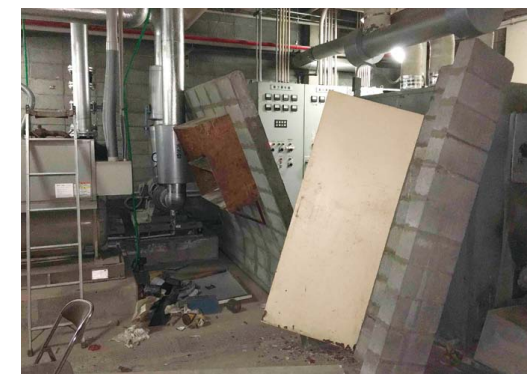
- 会議室窓ガラスひび割れ。サッシ鍵部分の破損。壁面ひび割れあり。トイレタンク蓋割れ。(⇒修復)
- 事務所机の上のパソコンが倒れ、破損。(⇒新規購入)
- ギャラリーの壁面にひびが入り、タイルが落下。照明器具がはずれ、食器棚倒れにより湯呑み等破損。
- ボイラー室の防火壁(ブロック塀)倒壊。(⇒修復)



会議室窓ガラスひび割れ



ギャラリー壁面ひび・タイル落下



ボイラー室の防火壁(ブロック塀)倒壊

2.宇土市民会館

4 地震後の経過・対応内容

①4月14日21時26分の地震は、宇土市で震度5強であった。この時に勤務していた職員による避難誘導の前、既に太鼓メンバーは屋外の会館駐車場に退去していたが、その駐車場には会館周辺の住民数名も避難のため集まっていた。

一部の市民が避難のために会館内に入ろうとしたが、職員の判断で建物内は危険性が高いとの理由で入館を断っている。その後館長が会館内の被害状況を見て回ったが、余震がひどく危険であるため退館し、翌日に期することになった。

②館内の被害状況から、4月15日以降18日までを臨時閉館としたが、4月16日午前1時25分、震度6強の本震が起こったことで、15日の被害調査から更に被害は拡大しており、20日から4月末日までは電話・窓口対応のみとして会館の一般利用は停止することとした。ただし、会議室棟の被害は比較的に軽微であったため5月1日より会議室の貸館利用をはじめたものの、大ホールは安全性が確保されるまでの暫くの間使用停止とした。

③会館による被害調査以外にも、会館メンテナンス業者や耐震補強工事担当設計業者、市担当部局、全国公文協等による被害状況調査が行われた。

④宇土市役所が全壊したことで市役所としての業務ができなくなったために、市の各部署が被害を受けなかった施設に分散することになり、会館では議会議務局の執務室として会議室棟1階の会館ギャラリーを6月1日から7月21日まで使用することになった。

⑤本震により客席天井の剥落、舞台すのこ部のボルト欠損、ガイドシュー変形、プロセニウムスピーカーの破損などが起こったため、その応急工事を行ない、5月上旬に大ホールも利用できるということで周知し、同20日に工事は完了した。しかし、その後余震も続いていたため市としては被災度区分調査を実施して万全を期することとし、大ホール利用開始時期を8月下旬に延期することになった。

⑥6月1日被災度区分調査を開始したが、本震後の緊急検査時にはなかった梁に新たなクラックが見つかる(余震による被害の拡大)。この調査結果を受けて、新たに舞台天井すのこ部を中心とした修復工事を実施することになり、ホール利用開始を11月上旬に再設定した。

⑦予定通り工事は10月末で完了し、11月10日より全館利用が可能となった。

開館後は地震によって県央地域の多くの施設が被害に遭い利用できないところがあり、宇土市以外の団体の利用が次々にあった。



すのこ梁クラック

⑧地震被害に対する被災者支援、慰問、及び支援コンサートの開催を行った。

今回の地震によって多くの市民の方々が被害に遭われたことで、会館関係だけでも多くの個人や団体による支援コンサートや慰問活動も相次ぎ、会館としても自主文化事業や各種会合において、被災者支援のための募金活動などを行った。

自主的な慰問・支援コンサートは次の通り。

●テノール歌手秋川雅史さんの避難所慰問

●メゾソプラノ歌手熊井千春さん、ピアニスト森尚子さんによる復興支援コンサート

●熊本県邦舞協会による「熊本チャリティ公演」

●劇団わらび座による保育園・福祉施設、避難所への慰問



避難所慰問

5 地震による課題・問題点

①耐震工事による被害減

宇土市は震度6強の地震を受けた。宇土市民会館より5年ほど早く建設された宇土市役所は倒壊したが、会館は平成19年に耐震補強工事を行っていたため、被害は最小限に止まった。

2度も大きな地震は起こったが、人的被害がなかったことは本当に幸いであった。しかし施設に少なからずの被害が出たことによって、さまざまな問題に遭遇することになり大変な1年半であったが、問題は徐々に少なくなっていった。

②ホール開館時期の変更・延期によるトラブル

開館時期が何度か変更・延期することになったので、利用者の方々への連絡調整やお断りの連絡などを行うなど、多くの利用団体に無理をお願いすることになり、特にいくつかの団体が2度、3度と日程変更を余儀なくされることになった。結果的に多くの苦情が寄せられることになり、自主文化事業についても時期や内容の変更を余儀なくされた。

特に「万作・萬斎の会による狂言の会」では応急修理実施により、開催の見通しがあったが、本震後の余震や目視以外での舞台上部施設(ぶどう棚)の毀損等により、出演者等の安全確保ができないということで修理を行ってからでないと開催できないということになった。既にかかなりの数のチケットが販売され、観劇を楽しむにしておられた方や実行委員会の方々などには多くのご迷惑をかけることになった。

2.宇土市民会館

③被害修理等の行政とのリスク分担

地震による施設や備品の被害については基本的に市側の負担となったが、前震・本震直後でも完全に被害の全貌が把握できていたわけではないし、後になってわかってきたことや、余震による被害、あるいは金額がさほど高くないものなど市側で負担できなかったものについては指定管理者で負担することになった。

④閉館中や施設利用減に伴う行政とのリスク分担

地震発生によって会議棟は2週間、大ホールは7か月間の休止を余儀なくされたが、利用者が被害にあわれ、催しや練習どころではないという雰囲気地震直後はあった。そのため会館利用は激減し、利用料金収入も大幅に減ることになる。そのため市側と協議し、収支の中間報告を9月に行った。その段階ではかなりの赤字であり、この状態が長く続くと運営に大きな支障を来す恐れがあった。

会議室利用が増加したこと、11月以降、大ホール再開後のホール利用も増えたことから、結果的には減収に対する市からの指定管理料の補填はないということになった。

⑤会議室・大ホール利用団体の増加

前述したように地震直後は殆ど会議室の利用はなかったが、6月頃から増え始めた。それは、市民生活が少しずつではあるが安定しつつあり、会合・催しが増えていったというものもあるが、実は地震によって市の多くの施設が使えなくなってしまったということが大きい原因であった。市役所をはじめとして、市中央公民館、中央公民館別館、市体育館(市役所仮庁舎として使用中だった)、市武道館などが使えなかったということで市民会館での会合が極端に増えてきた。

地震によって県央地域の多くの公共文化施設が被害に遭い利用できないところが多くあり、会議室利用も宇土市外からの利用が増えていった。大ホールについても、会館の全館オープンが平成28年11月10日にはできることになり、県内では比較的に早い時期の開館となった。そのため近隣ホールで予定されていた催しが次々と会館に入ってくることとなった。

⑥会館スタッフ、委託スタッフの業務

地震直後しばらくは会議室棟を閉館し、大ホールが使えるようになるまで7か月を要することになった。この間の委託している舞台スタッフの契約継続の課題等もあったが、機器点検、修理、安全確認、会館内外の清掃や施設の見直し、修理、文書の整理、倉庫や地下室の片付け等を行うことで、基本的には契約は継続することとした。

また、会館利用の予定であった団体が、ホールが使えないために別会場での開催を余儀なくされたイベントに対しては技術スタッフの派遣や技術面でのアウトリーチ活動を実施した。

会議室棟利用が増えたことによって、当然のことながら6月以降は、スタッフ職員の負担も増えることになった。一方で従来からの利用者だけではなく新規利用者が増えたことで利用者ニーズが多様化することになり、それに対する職員の対応、スキルアップにつながっていった。

6 おわりに

熊本地震から7か月後の11月10日に大ホールの利用が再開できるようになり、早速翌11日に大ホールを使った小学校の音楽会が行われ、大ホールは満席状態であった。ところが当日本番中に震度3の地震が起こった。幸い事前の主催者と会館との打ち合わせ段階で地震対応アナウンス文を渡しており、主催責任者が落ち着いた対応を取られ行動されたことで、来館者全員冷静に対応し事なきを得た。

また、会館としてはこれまで火災を基本とした各種訓練を毎年実施してきており、地震を想定した避難訓練については熊本県立劇場で行っていた避難訓練コンサートなどに参加していた。

今回の熊本地震の経験を踏まえ、危機管理マニュアルを作成し、対応することとしており、地震後は消防、地震対応の訓練を継続的に実施している。

今しばらくは会館の利用は多いものと思われるが、市施設の復旧復興による建て替えや、市外の公共ホール再開の際には当然のことながら、会館の利用は徐々に減少することになる可能性がある。そのような状況になっても多くの市民や、市外の方々に足を運んでもらえるような公共文化施設としての役割を果たし、安心で良好な会館環境を整えて行きたい。

コラム

熊本地震と文化施設(熊本市国際交流会館編)

多言語、異文化対応の避難施設運営

熊本地震発生時、熊本市に外国人は約4,500人在住しており、多くの外国人観光客もいた。彼らは、災害情報が殆ど日本語で行われたことや地震の知識がなかったことにより、パニックとなった。前震直後、市の地域防災計画に基づき国際交流会館に外国人避難対応施設が開設され、本震後は約2週間24時間体制で運営された。

本震直後から、会館には一刻も早く県外へ移動するための交通情報を求める韓国、中国、アメリカ等の団体・個人旅行者ら200人以上が殺到した。一方、避難所や銭湯の場所、水・食料その他物資の配給場所・時間等の情報を英中韓語へ翻訳し館内に掲示したり、ホームページ上で提供したりした。

生命線とも言える「食」では、民間国際交流団体の協力で、温かく栄養バランスが取れ、イスラム教徒の豚や酒を食しない文化を配慮した炊き出しを継続して提供することができた。

外国人対応避難所閉鎖(平成28年4月30日)まで、延べ17か国、356人の外国人被災者が避難生活を強いられた。

(八木 浩光)



会館避難所での炊き出しに並び避難者の方々

3.熊本県立劇場

(報告)牛島 真吾

1 はじめに

平成23年の東日本大震災以降、大地震に対する備えを、当劇場なりに進めてきました……にもかかわらず、本番中に揺れが襲っていたら、なすべがなかったのではないかと、それまでの想定の甘さを痛感しました。

まず、地震発生までの取り組みとして、東日本大震災で被災したホールを訪問し、一般の方々にも参加していただく形での、大地震を想定した避難訓練コンサートを、平成24年から実施してきました。

次に、危機管理マニュアルの見直しを図り、催事本番日は危機管理責任者を配置して主催者と協働した管理体制をとることとしました。以前は、火気を使用する場合のみに義務づけていた「防災体制表」の提出を「危機管理体制表」と改め、全ての催事に提出を依頼し、各役割毎に主催者と劇場双方から責任者を出し情報の共有を図ることとしました。

また、宮城県の被災地に若手アーティストを派遣する活動も継続的に行ってきました。

2 被災状況と対応経過

平成28年4月14日の前震発生直後より情報収集ならびに県の主管課をはじめ、建物の設計者である前川建築設計事務所等に連絡を開始。翌日には建築、電気、舞台機構等の主な設備の現場調査を行ったうえ、気象庁が1週間程度は余震等の発生に注意が必要であると呼びかけていたことから、県民、利用者に対して4月21日までの閉館を発表しました。

しかし、4月16日に発生した本震の被害は甚大で、館内のライフラインがほぼすべて停止したほか、エントランス、ホワイエ照明器具の落下の恐れや、建物外壁パネルのずれの進行、トイレ用高架水槽の全損等がみられました。

2つのホール内は天井の落下や舞台機構の損傷等、目視の範囲では大きな被害は見受けられなかったものの、詳細な被害調査による安全確認が必要であること、さらに高架水槽の復旧にもしばらく時間を要することが見込まれたため、当面の措置として2か月程度(平成28年6月20日まで)の臨時閉館を発表しました。(平成28年4月19日)

しかしながら、その後の調査で外壁パネルの損傷が著しく、落下の危険性があることが指摘されたことから危険個所の撤去が必要となり、度重なる余震によりさらに被害が拡大した館内の損傷個所と併せて、開館のための工事に相当期間が必要であることが判明したため、さらに2か月程度(平成28年8月24日まで)閉館の延長を決定しました。(平成28年5月30日)

熊本市市民会館をはじめとして熊本市圏の公共ホールが軒並み被災し、復旧のメドが立たなかったことから、当劇場は早期開館を目指し、長期の工事期間が見込まれる外壁の復旧工事は当面の危険個所除去のみを行うこととし、館内の安全を確保したうえで開館することとしました。

復旧工事については、県との協議により開館のための応急工事として財団が県からの委託を受けて行う財団施工分と、県が直接外壁工事を行う県施工分の二段階としました。

早期開館に向けた修繕費等が県の5月臨時議会の補正予算で措置され、40か所を超える損傷個所を優先順位に基づき、財団からの発注で施工しました。

大規模工事が見込まれる外壁パネルの修復工事等については、6月定例議会の補正予算で措置され、詳細な調査と工法検討を経て平成29年度中に県営繕課から発注、施工することとなりました。

平成28年度の約4か月間の閉館で、中止もしくは延期した催事は149件。同期間の催事中止による使用料の返還額は、151件で総額約2,000万円に上りました。

財団の主催事業については、9事業を中止し、延期や会場の変更は7事業で、事業予算は270万円の減額補正となりました。

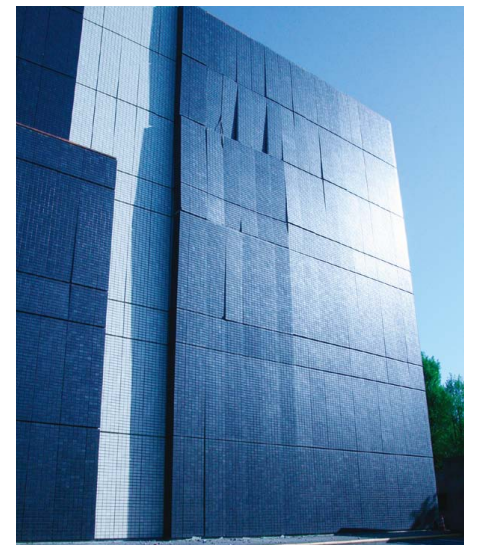
3 主な施設被害

●外壁PC板損傷

今回の地震で、「プレキャストコンクリート(PC)板」という二重壁の外壁パネルのズレが全体の3割程度生じました。このPC板は、1枚(0.9m×3.5m)につき約1.3トンの重量があるため、落下した場合は被害が甚大との指摘を受け、立ち入り規制を行いました。



北側外壁PC板取外し



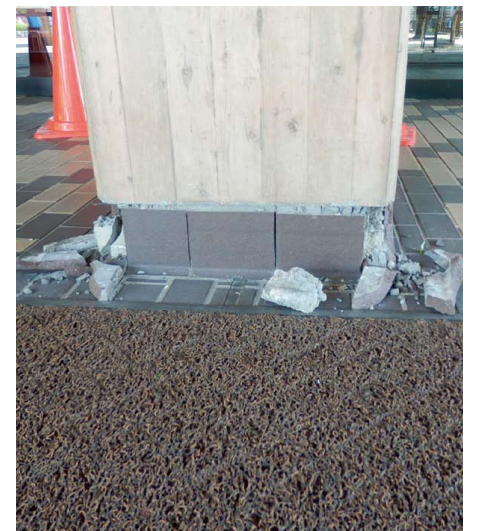
南側外壁PC板のズレ

●正面玄関プロムナード車寄せ屋根柱の亀裂

建物西側の正面玄関のプロムナードの車寄せの庇(ひさし)を支える柱に亀裂が入りました。特に道路側の3本の柱については躯体の浮きや剥離が鉄筋まで届いており、危険であることから、撤去することとなりました。



西側プロムナード車寄せ屋根損傷部撤去



正面エントランスの柱の亀裂

3.熊本県立劇場

●シャンデリアの不点灯・器具ずれ

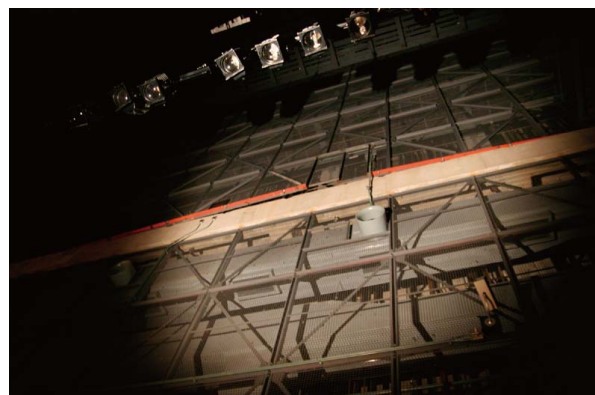
エントランスホールやホワイエの照明器具の不点灯が部分的に発生しました。これは短期間で復旧できましたが、シャンデリアのガラス製グローブ部分の傾きについては、今後も落下の危険性が残ると指摘されたため、全数(48か所)の器具を取り外しメーカーにて改良を行い再設置しました。



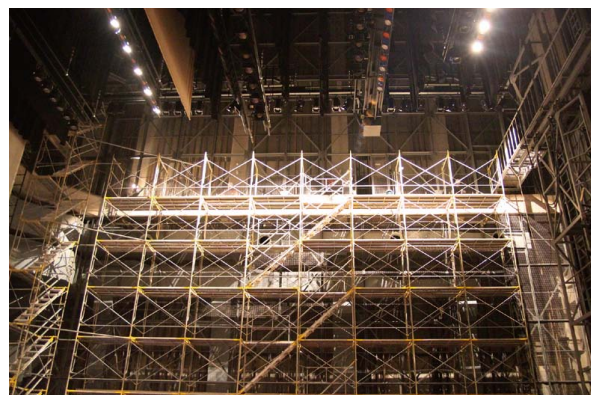
シャンデリアの不点灯とグローブ傾き

●演劇ホール舞台キャットウォークのネットフェンス及び水平ボードの破損

第3サスペンションライトのウエイトがガイドレールから外れたことにより、舞台上手上部のキャットウォークの躯体部分に接触し損傷、フライギャラリー部分のネットフェンスが外れました。また、水平の石膏ボードが一部脱落し、フレーム破断や無数のクラックが生じたため足場を組んで修復しました。



演劇ホールのネットフェンス破損



演劇ホール足場

●高架水槽及び配管、パネルの破損

館内のトイレ及び空調用の給水タンクである高架水槽の配管とパネルが破損し、修復までの約2か月間余トイレ等が使用できなくなりました。また、修復後に館内の配管に水圧を掛けたところ、水漏れ等の異常が確認されたため別途修繕することとなりました。



屋上高架水槽の破損

4 被災後の取組

●4月18日 駐車場に大阪ガス復旧応援隊と車中泊避難者の受入

大阪ガスの復旧応援隊と車両約100台の受入れを行いました。また、熊本市からの要請を受け、指定避難所である隣接する熊本学園大学に入れない車中泊の避難車両の受け入れを行いました。

●6月10日 熊本県公立文化施設協議会役員会の招集

利用可能な館の情報提供や、音楽や舞台芸術を通じた被災者支援について協力することを確認しました。
※熊本県内公立文化ホールの被害状況の調査をまとめ、劇場ホームページに地震サイトを立ち上げて公表。(22館/34館 被害あり回答、内12館閉館)

●7月26日 熊本県公立文化施設協議会修繕・改修工事相談会の実施

各会館の復旧に向けて、今後の修繕工事や安全点検計画に役立てるため、建築の専門家を招き、復興に向けたアドバイスや相談会を実施しました。

●8月9日 復旧工事の内覧会の実施

復旧状況について財団事務局から説明した後、おもな復旧個所の現場を見ていただき、県民への周知を図りました。(新聞3社、テレビ局5社が参加。)

●8月21日 地震訓練の実施

中規模地震の発生により、公演が「中断」「継続」した場合と、大規模地震により「避難誘導」を行ったパターンについて訓練を実施し、開館後の本番時の対応について課題の検証を行いました。

●8月24日 県劇夏祭りの実施

工事期間中、ご迷惑をおかけした近所の方々や利用者のみなさまとともに、再開を喜び、復興への力強い一歩を踏み出すきっかけづくりとして開催しました。



県劇夏祭り「にゅ〜盆踊り」



復旧工事内覧会



地震訓練

3.熊本県立劇場

5 今後の予定と、業務の見直し

●本格復旧

館内の危険個所の応急工事が完了したことにより一旦開館したのち、外壁PC板の復旧工事を開館しながら実施するため、平成29年3月から平成30年3月までの工期を要することとなりました。

着工後は、貸出施設や駐車場等の利用制限、本番時間帯以外での工事音や振動の発生等が見込まれるため、利用者に事前周知と工事への理解を求めました。



外壁の本格復旧工事

●文化事業の見直し

平成28年度については、主催事業の中止が9事業、開催時期や会場変更が7事業となりました。また、被災者のこころの復興支援事業「アートキャラバンくまもと」を立ち上げたほか、県内ホールとの更なる連携の強化を図りました。

●危機管理マニュアルによる主催者との協力体制の確認と本番前の取り決め

万一の際の緊急対応として、催事の中止や中断、及び再開に関する取り決めを本番前に主催者と確認することとしました。また、公演前のカゲアナウンスで、緊急時の諸注意等を周知しています。

さらに、舞台袖やホールホワイエに利用者用ヘルメットや懐中電灯、メガホンを増やしたり、職員全員にもヘルメットを用意するなど、緊急時用の備品を増強しました。

6 アートキャラバンくまもと

今回の熊本地震に対して、国内外から劇場へ多くの寄付金が寄せられました。

この寄付金は、熊本地震被災者のこころの復興に資するために立ち上げた「アートキャラバンくまもと」事業の活動費に充て、平成29年3月末までに146回の公演を実施し、のべ14,500人を超える被災者に音楽や演劇、ダンスなどのアートを届けました。



コンドルズのダンスワークショップ(益城町立広安西小学校)



英国ロイヤルバレエ団のダンスワークショップ(嘉島町立嘉島中学校)

「平成28年熊本地震」発災後から約2週間の動向

月	日	曜	時間	内 容
4月14日	木		21:26 震度5強(熊本市中央区)	劇場利用者は全員退館しており、事務所に4名勤務
			21:40	局長、次長、参事が劇場到着。その後館内被害状況及び、職員の安否確認
			22:20	熊本県主管課に被害状況報告
			22:30	舞台機構業者に連絡
			22:55	翌日本番のホール主催者へ連絡
4月15日	金		8:05	ホール主催者からの連絡を受け当日の催事中止を決定
			8:20	熊本県主管課に現状報告
			9:10	建築設計事務所、建設会社に現状報告
			9:20	舞台機構業者へ状況調査を依頼
			11:00	電話設備を仮復旧
			14:00	建設会社、電気工事業者、照明業者が現状調査
			15:00	熊本県主管課による被害箇所視察
			16:00	館内立ち入り禁止を決定(当面4月21日まで閉館とする)
4月16日	土		1:25 震度6強(熊本市中央区)	
			午前中	局長、次長他5名で館内の被災状況再調査
				事務所管理棟停電、電気工事業者へ復旧連絡
				高架水槽破損、空調業者に復旧工期と工事費概算を依頼
			16:00	熊本市からの要請で、車中泊を必要とする避難者に対して駐車場の一部を無料開放
4月17日	日		13:00	職員の勤務シフトの打合せ
			16:00	舞台機構業者から余震等の影響により当面安全確認は不可との回答
			17:00	守衛、清掃委託業者の人員体制見直し
4月18日	月		9:00	大阪ガスの復興応援隊に駐車場約100台分を提供
			11:30	事務所管理棟の電源を仮復旧
			12:15	上水道が復旧(衛生検査等は未実施)
			12:15	復興対策会議(副館長、局長、次長他4名、熊本県主管課2名)
4月19日	火		11:00	情報共有のため全職員との打合せ実施(事務局、委託先、レストラン計22名出席)
			15:00	熊本県営繕課による被害状況視察
			18:20	ホームページに臨時閉館をアップロード
4月21日	木		13:00	建築設計事務所による現場視察
4月22日	金		10:00	舞台機構業者による舞台迫り機構の安全点検実施
4月26日	火		9:00	舞台機構業者による舞台吊物機構の安全点検
			10:00	照明業者による舞台照明設備の安全点検
			12:00	県内公立ホール被害状況の調査まとめ
4月27日	水		8:45	熊本県営繕課による施設被害状況の調査
			23:55	姜館長TBSテレビ「NEWS23」に生出演し被災状況を報告
4月30日	土		10:00	建設会社による建物視察の結果、建物外壁PC板が危険との報告
			17:00	劇場敷地内を仮囲いで立入規制

4.熊本市男女共同参画センター はあもにい

(報告)梅田 勝也/反後 文代

1 はじめに

平成28年熊本地震では、当館は建物の被害はそれほど大きなものではなかったが、震災から半月後に集約避難所に指定され、約3か月半、避難所として稼働した。その後もメインホールは改修工事が終わるまで貸し出し休止となり、すべての貸室、ホールの再開まで約1年かかった。

4月14日(木)21時26分 前震発生 震度5強(熊本市中央区)

- リハサル室Aにて利用者がいたが、ケガ等は特になく、すぐに帰宅された。
- 発生直後から近隣の住民十数名が避難してきたため、受け入れを行うと同時に、事務局も3名が朝まで残り避難者対応、建物・設備被害確認、関係各所への連絡等に追われた。
- 避難者は夜明けとともに全員帰宅。

4月15日(金)は開館(主催講座は休講)

4月16日(土)1時25分 本震発生 震度6強(熊本市中央区)

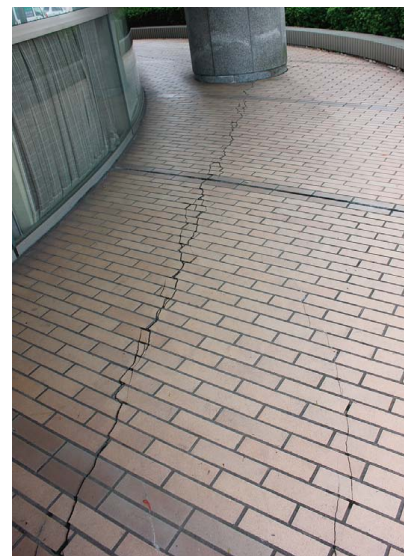
- 被害状況、安全確認のため会館は臨時閉館。舞台装置、機械設備等の破損、損傷有り。スタッフの安否確認 自宅全壊3名、ケガ人なし



メインホールの反響板ガイドレールが破損



本が落下散乱した情報資料室



タイルに亀裂が入った玄関前

2 被災状況と対応

4月17日(日)責任者を中心に出勤可能者を召集

- 建物被害、設備損傷の確認のため臨時閉館。
- 被害内容:外壁タイルの剥がれ、ひび割れ、舞台装置損傷拡大。館内壁のひび多数有り。

4月18日(月)臨時閉館

熊本市の所管課である男女共同参画課2名による会館被害確認実施。

確認後、男女共同参画課2名、はあもにい館長、各課責任者により今後の会館の対応を協議。結果は、熊本市営繕課による応急被災度判定等の安全性の確認が取れないと開館はできないとの判定。4月22日まで、臨時閉館とすることが決定。

4月21日(木)被災度判定実施

熊本市営繕課による建物被害状況等の被災度判定実施。

結果は利用可能との判定。この結果を受けて、今後の会館運営のスケジュールを協議した。

会館再開を4月28日に決定。27日までは開館に向けて軽度の損傷箇所の修復や各設備の業者による点検を実施。

4月26日(火)ライフライン復旧

ガスの点検が実施され、ガスの供給が再開。

空調も全館再開できる状態となる。

4月28日(木)開館スタート

- 損傷を受けたメインホール、多目的ホール以外の貸室再開。開講していた主催講座は、秋に延期した。
- 幼児室を親子ルームとして開放。
- 1階エントランスにサテライトオフィス設置。

3 避難所開設

5月3日(火)集約避難所開設決定

会館が5月8日から中央区・北区(一部)の集約避難所となることが決定し、貸室貸出休止となる。ただし、情報資料室、幼児室親子ルーム、サテライトオフィス設置は継続。避難者については、単身女性や母子を中心に受け入れることを決定。

5月7日(土)避難者受入れ前日

翌日からの避難者受け入れに向けて、市職員、はあもにいスタッフ、ボランティアにより避難所の設営、物資の搬入等を行う。携帯電話会社より、Wi-Fi、充電器貸出の協力申し出があり各階に設置。

- 避難所居住スペース…研修室(3部屋)リハーサル室B、C、学習室(北区)
- 物資置き場…会議室
- 避難者食事スペース…食のアトリエ

4.熊本市男女共同参画センター はあもにい

- 洗濯機設置、物干しスペース…創作アトリエ
- 救護室…和室
- 看護師対応、リハビリ、マッサージルーム…スタジオ
- 看護師控室…編集ルーム
- 感染症等の隔離スペース…リハーサル室A
- 避難者受付・市職員事務スペース…1階ロビー
- 会館の外にペット用テント設置
- シャワー…3階シャワー室

5月8日(日)避難所開設初日

午後より避難者受け入れスタート。

受け入れ人数は63名。避難所になったことにより、会館スタッフの勤務シフトは24時間体制になる。(交代制)

5月10日(火)メインホールの新たな損傷発見

メインホールの吊り物精密点検が実施され、メインホール反射板のガイドレール、ガイドシュー等、修繕が必要な箇所が新たに見つかる。

5月13日(金)多目的ホール精密点検

可動式客席の点検が業者により実施され、ワイヤー等の損傷が見つかる。

6月8日(水)多目的ホール利用再開

軽度の損傷であったため、修繕が完了し利用再開。

多目的ホールは避難者住居スペースではなかったため、熊本市男女共同参画課の承認を取り、避難所と併用で利用開始。

8月14日(日)避難所閉所

午前中までに避難者全員退所となり、はあもにい避難所は閉所した。

9月1日(木)貸室貸出再開

メインホール以外の貸室の貸出再開。

メインホールの再開はこの時点では未定。

平成29年3月中旬 メインホール改修工事終了

地震による損傷箇所の工事が終了し、その後、熊本市による検査を受けて3月下旬には利用可能な状態になる。

平成29年4月1日 メインホール利用再開

ホール・貸室の修繕が完了し利用再開。全ての利用が可能となる。



避難所の間仕切り



避難所の女性専用物干し場



意見箱を設置した避難所のトイレ

4 支援物資、慰問公演等の受け入れ

集約避難所になってからは、全国から支援物資や慰問公演の申し出があった。支援物資については、女性や子どもを対象にしたものに絞って受け入れをし、各避難所や女性団体、市民団体等を通じて必要なところへ配布した。

また、県内の他施設と連携し、落語や演劇公演のほか、1階エントランスに特設ステージを設け、慰問公演の受け入れを行った。



支援物資



多目的ホールでの落語



エントランスでの慰問公演

5 熊本市男女共同参画センターとしての取り組み

災害発生後、避難者受け入れ、施設の安全確認、改修工事、避難所開設・閉所、幼児室の開放、慰問公演の受け入れ等の対応と並行し、男女共同参画センターとして、被災者・支援者への支援活動を開始。

平成28年4月22日から概ね半年間、避難所など

◎性暴力・DV防止啓発活動

●熊本地震・被災女性支援プロジェクト

東日本大震災など、災害時に子どもや女性を狙った性暴力、DVなどが報告されており、今も被害者が苦しんでいるという現状から、被害を未然に防ぐため、性暴力・DV防止啓発のポスター、チラシ、カードなどを作成し、避難所に掲示や支援物資に添付して配布。またホームページに特設ページを開設した。(協力団体:公益財団法人ジョイセフ)

4.熊本市男女共同参画センター はあもにい

平成28年4月27日から7月15日(市内集約避難所は概ね8月から9月に閉所)

◎避難所キャラバン

- 市内避難所をまわり、内閣府作成の避難所チェックシートに基づき、運営スタッフとともに男女共同参画の視点から現状を確認、環境改善につとめた。5月に避難所が集約されてからは、市内集約避難所23か所を全て定期的にまわり、状況を確認。
- 更衣室や授乳室などの表示を配布し設置を促した。
- 意見箱「みんなの声」の設置および意見の回収、運営スタッフへのフィードバック
- 女性や子育て世帯を中心に、避難所入所者への個別ヒアリングを実施し、運営スタッフと情報を共有。
- 女性や子ども向けの支援物資提供の呼びかけおよび配布



避難所キャラバンで運営スタッフと話す職員



避難所運営スタッフに更衣室の表示を渡す職員



性暴力・DV防止啓発チラシ

◎自立支援事業

震災後、自宅の片付けや手続きなどを自力で先に進めることが難しい方や、自分のことを後回しにしてストレスをため込んでしまっている母親などが見受けられたため、防災講座や、自由に話ができる場をつくるなど、自立支援や心のケアにつながる事業を実施。

平成28年6月9、22日、7月21日
避難所での防災ミニ講座

平成28年6月30日、7月8日、20日
栄養士による食に関する講話と防災備蓄品を利用した食卓会

平成28年8月6日、9月14日(全5か所)
親子メンタルケア講座
「あなたの楽しいが子どものケアにつながる」

平成28年9月から平成29年3月 毎週月曜
足湯&茶話会、防災クッキング(実施団体:NPO法人小町ウイング)

平成28年6月から12月(全7回)
子育ておしゃべり会(協力団体:オックスファム・ジャパン)

平成28年8月から11月(全3回)
ストレスケア研修(協力団体:オックスファム・ジャパン)



ストレスケア出前研修



足湯



自己メンテナンスシート表紙

平成28年11月24日
『LADY TALK』in 熊本
(共催:公益財団法人ジョイセフ)

◎男女共同参画の視点からみた防災啓発活動

8月の避難所閉所後、災害時に重要となる男女共同参画の視点の啓発のため、シンポジウムや講座を開催。

平成28年9月22日
シンポジウム「災害と女の子 ガールズが直面する二重の危機」
(共催:公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン)

平成28年10月22、23日
男女共同参画の視点からみた防災講座
「いまこそ学ぼう!新時代の家庭と地域の防災力!!」

平成28年11月26日
防災備蓄品を利用した料理教室「パパと作ろう!パンの缶詰DEブリティケーキ」

平成29年3月4日
防災パネル展示(第5回ミモザフェスティバル)

平成29年3月7日
黒髪校区・碩台校区 熊本地震活動報告集会
(主催:熊本市高齢者支援センターささえりあ浄行寺)



シンポジウム「災害と女の子 ガールズが直面する二重の危機」



男女共同参画の視点からみた防災講座



第5回ミモザフェスティバル

5. 益城町文化会館

(報告) 米原 康広

1 益城町文化会館について

当館は平成2年に開館したシューボックス(直方体)タイプの音楽を主体にした客席数506席(1階453席/2階53席)の多目的ホールと、控室×2、リハーサル室×2、練習室×3の中規模ホールです。

平成27年4月より指定管理者制度導入に伴い、民間企業3社のコンソーシアムで貸館業務・自主事業等の運営を行っています。

2 被災状況と対応について

4月14日の前震被害 震度7(益城町)

館内では停電及び断水、ホールロビーのテラスに面するガラスの粉碎、ロビー天井(半円状部分)の歪み、練習室内アップライトピアノの転倒、館内の備品等の転倒・散乱など確認されましたが、平成24年に天井耐震補強工事が実施されていたためか、ホール内はほとんど被害ありませんでした。また館外では駐車場の一部に亀裂、建物裏の擁壁一部に亀裂・歪みなどが確認されました。



ロビー側テラスのガラス粉碎

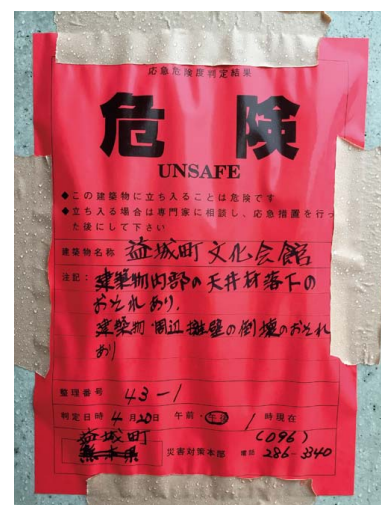
前震後の対応

前震の翌日が自主事業であったため、被災状況を確認し中止を決定、それ以降(4月中)の利用者についても翌日に閉館の連絡をしました。建物や設備に関しては各保守管理業者へ緊急点検を依頼し、早期復旧再開を目指しました。

また、指定避難所ではなかったのですが、職員泊り込みを条件に町の許可を受け20名ほどの近隣住民の避難を練習室に受け入れました。

4月16日の本震被害 震度7(益城町)

館内ではロビー天井(半円状部分)が崩落し、客席2階へ上る階段手すり下敷きになり破損。空調ダクトの一部脱落、調整室内の音響卓が台より落下、ピンスポットライトの転倒・破損、ホールのコンサートピアノが2台とも破損、館内の床や壁にひび割れ多数。また、館外では駐車場含む建物周辺の亀裂拡大・陥没が多数発生、建物裏の擁壁も倒壊。見渡す限りの近隣の民家が倒壊し街灯が押し潰され、文化会館も応急危険度判定では赤紙の判定を受け、早期復旧再開は絶望的な状況となりました。



応急危険度判定(赤)



ロビー天井の一部崩落



音響室の落下した音響卓



事務所付近(段差30cm)



左:全壊した民家 右:搬入口と事務所



建物裏の倒壊した擁壁(上から)



建物裏の倒壊した擁壁(下から)

本震後の対応

ロビー天井の崩落等被害が拡大したため、避難者を指定避難所である益城町総合体育館へ誘導することになりました。翌日、役場に設置されていた震度計が使用できないため、気象庁の要望で文化会館への設置を受け入れ、駐車場内に日本財団等の災害ボランティア拠点設置を受け入れました。停電は1週間ほどで復旧しましたが、断水が1か月以上続いたため、受水槽内の水を汲み出し、ボランティア等へのトイレ貸出しを行いました。

5. 益城町文化会館

2次被害

6月の大雨により事務所内や舞台袖・ピアノ庫内が深さ1～2cm浸水する被害が発生しました。原因は建物周辺の側溝が地震で壊れ機能していなかったため、雨水が建物下より染み上がってきたのが原因でした。また、外壁タイルに隙間や歪みが生じ、ロビーやホール客席内上部より雨漏りも発生するなど、水害に悩まされる日々でした。



深さ1～2cm浸水したピアノ庫

3 100日慰霊祭に向けての応急修理

町長の意向で地震後100日の慰霊祭を7月中旬に開催する計画が立てられましたが、町内の公共施設や学校等がすべて避難所となっていたため、奇跡的にホール内がほぼ無傷であった文化会館を応急修理することで開催場所に決まりました。それまで、避難所や仮設住宅の建設が優先事項で、避難所でもなかった文化会館は被害調査・修理の優先順位が低かったのですが、これを期に応急修理工事が進みだし、7月の慰霊祭後、9月より応急修理のまま全館業務を再開しました。

なお応急修理の内容として、まずロビー天井に残っていたボードや骨組をすべて撤去し、二重にネットを張り安全を確保しました。ロビーテラス側の破損したガラスは、ボードで塞ぐなど対処しましたが、ロビーの2階客席へ上がる階段手すりには修理が出来ず、2階席を使用禁止としました。



100日益城町慰霊祭



ロビー天井に二重ネット



ロビー側テラスのガラス応急修理

館外では駐車場の陥没した穴を埋め、水害の原因だった側溝の整地や外壁タイルを塗装工事、上水道は漏水個所以降を地上むき出しで受水槽まで配管、下水は途中にモーターポンプを取り付け、同じく地上配管で近くのマンホールまで繋ぎました。また、ホールのコンサートピアノ2台については震災後に結成された支援団体から修理費用を負担して頂きました。(平成29年10月末現在もこの応急修理の状態で開館しており、平成30年度より1～2年かけて全館閉館し、大規模修理工事を予定。)



事務所付近段差調整



建物裏の倒壊した擁壁の上から養生

4 益城町被災者支援窓口の開設

文化施設として被災者へ何かできることはないかと模索し、それまで各避難所や町の災害対策本部へ直接問合せが入っていた音楽や芸能の避難所慰問の申し出を一括で受け入れ、避難所へ調整する橋渡しをする窓口となることを町へ提案しました。

結果、災害ボランティアは町の社会福祉協議会、炊き出しボランティア(食品を取り扱う)はNPOくまもと、慰問ボランティアは文化会館と、この3団体がボランティアの窓口となりました。

文化会館は6月よりこの窓口を開設したのですが、開設当初は音楽や芸能の慰問より、洗髪、散髪、マッサージ、足ツボ、気功、ヒーリング、健康体操などの申し入れが殺到し、対応に追われる日々が続きました。

震災当初から県内の理髪師やマッサージのボランティアが多数の避難所に定期的に訪問するなどしていたため、県外からの新たな申し入れに対する需要が少なく、避難所から断られることも多くありました。

また、ボランティア申し入れ側からも「人が少なかった、もっと告知をしてもらいたい」「長机○台、椅子○脚、電源コードリールを準備してほしい」など、残念なことに被災地に負担を強いるような注文や文句もあり、本来のボランティアとは何たるかを考えさせられる毎日でした。と同時に、これまで避難所が慰問ボランティアの申し入れを直接受けていたことと比べると、窓口を一本化することでそのような団体や個人を見極め、また事前に打合せや注意事項をお伝えし、避難所との緩和剤として役立てたように思います。



ホームページからも受付可能(バナー)

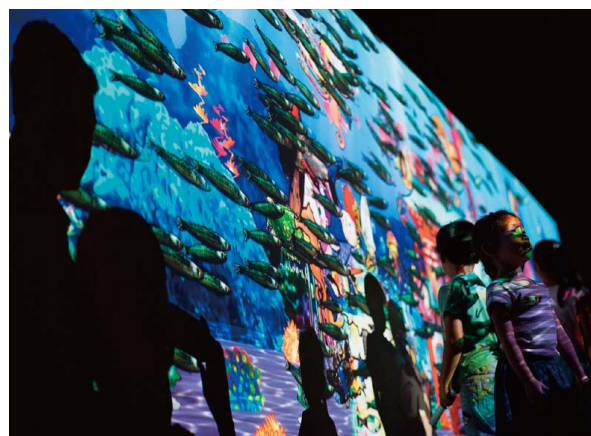
5.益城町文化会館

窓口開設中は6月約100件、7月約50件、8月約30件の申し出を毎週月曜の休館日も開けて受付け、内容に応じて避難所だけでなく学校や幼稚園、保育園、介護施設、地元夏祭りなどへの派遣調整も行いました。そして町内18か所あった避難所のうち16か所が8月末までに閉鎖されたことや、文化会館の全館業務再開が9月より決まったことを受け、益城町復興課へ引継ぎし、窓口を閉じました。

5 業務再開及び自主事業

4月から約4か月の休館の間、利用料金制をとる指定管理者としては、利用料の収入はなく、さらに前年度に徴収していたホール利用料も全額返金したため、運営は苦しいものがありましたが、構成企業各社の企業努力でしのぎながら、前述の通り、7月の慰霊祭をきっかけに文化会館の応急修理を実施したことで、条件付きではありますが、9月には全館業務再開することができました。再開後は町主催の住民説明会や地震経過報告会、地元中学校の体育館が使えず文化会館での学校行事の実施や県外からの慰問コンサートの数々、また近隣市町村のホールが閉館していたこともあり、例年より1.3～1.5倍の稼働率まで上がり大変ではありましたが、「復興」と名のつく催しは極力断らず、受け入れました。

また、自主事業では地震当初のイベントは中止となったものの、8月以降は出演者やマネジメントのご好意もあり一部内容を変更しながら、無料公演にて町民に楽しんで頂くことができました。再開後の自主事業で最高の動員があったのは「ぬり絵かき海のお魚大冒険」という子供向けのイベントでした。イベント内容は、メインはステージ上のスクリーンに自分でぬり絵したキャラクターが映し出され、泳ぎ回るという企画を福岡の企業が避難所にて実施したいと窓口である文化会館に相談頂いたのですが、避難所では規模が大きすぎて開催できなかったため、文化会館の業務再開のタイミングで共同開催することになりました。



ステージ上のぬり絵イベント



ロビーでのミニ四駆などのイベント

そこで、せっかく開催するのならばと、それまで避難所へマッチングしたボランティア団体へも声をかけ、ミニ四駆コース、移動マンガ図書館、読み聞かせ会、木の迷路ハウス、ケータリングカーなど多くの団体から協力頂き盛大に開催することができました。台風が接近する中でも、2日間で延べ2,000人の来場者があり、被災により子供の楽しみが減っていることを痛感する催しとなりました。

そんな中、サッポロホールディングス株式会社より益城町の子供たちを長い目で支援したいとの申し出を受け、また、多くの演奏団体や個人からの文化会館に対する寄付の申し出も頂き、その好意を文化会館が形に変えて子供たちに届けられるよう益城町教育委員会と協力し、平成29年度より「益城町次世代育成事業実行委員会」を立ち上げ、複数の企画を実施・予定しています。

6 今後の見通し

現在、通常業務を行いながら町主導のもと、被害の調査を行っており、基礎部分にある程度の損傷が確認されました。幸いにも建て直しは免れたものの、平成30年6月末までの貸出し及び自主事業は継続し、近隣のホールの開館に合わせて7月以降に全館閉館・大規模改修工事を行うこととなりました。ただし現在も調査及び査定が続いており、工事期間が概ね1年～2年とは聞いているのですが、再開時期がいつ頃なのか、わからない状況で、例年ご利用いただいている利用者からの返答に困っています。指定管理者の立場としても、来年度以降の契約も含めて今後協議していかなければと考えています。

コラム

熊本地震と文化施設(菊池市市民会館編)

想定外の事態①

閉館中の他会館からの催事の受け入れ等

県内の多くの会館が被害を受けた中、他会館より比較的早く開館できました。地元利用者の中止・変更処理等の対応に重ね、新規の利用や、他会館での中止を余儀なくされた利用者(企業・団体)からの問合せが多く寄せられました。

他会館での催物等が出来なくなり、開館出来ている会館を探している主催者からの問合せで、後から分かったことですが、キャパシティの問題・交通手段・宿泊等の問題で担当者の方は相当苦勞されたようでした。(1,500～1,600人の研修会議)

自会館での予約団体に、電話で中止/変更の連絡を行いました。延期変更が多かったため、優先順位を決め全予約者(主催者)へ電話連絡(4月から10月まで全館・全部屋)

- 1.中止の決定の場合 (キャンセル手続き返金処理へ)
- 2.延期変更の場合 (変更手続きへ)
- 3.新規利用の場合 (開館日が決まり次第予約日のお知らせ)

希望内容を詳しく聞き取りを行ったことで、後々クレームやトラブルにならずにすみました。
(有光 輝豊/作田 史佳)

12.くもと森都心プラザ

(報告)青山 賢二

1 はじめに

くもと森都心プラザは九州新幹線全線開業に合わせ、熊本市が熊本の陸の玄関口・JR熊本駅前に熊本の新たな魅力と活力を創り出していくための情報交流の拠点として建設されました。施設は、熊本駅東A地区再開発ビルA棟の2階から6階部分で、延床面積は9,568㎡。2階に観光・郷土情報センターや市民サービスコーナー、わくわくカフェ、3階から4階がプラザ図書館、4階にビジネス支援センター、5階にホール(最大489席)と多目的室(90席)、6階に会議室(30～45席)4室を備える複合施設です。指定管理者制度を採用し「くもと森都心プラザ管理運営共同企業体」が管理・運営をおこなっています。平成28年4月1日から2期目がスタートして2週間後に地震になり、全フロアにわたって被害を受けました。この報告書は5階のプラザホールを中心に報告します。

2 前震から本震

4月14日 21時26分 震度6弱(熊本市西区)の前震

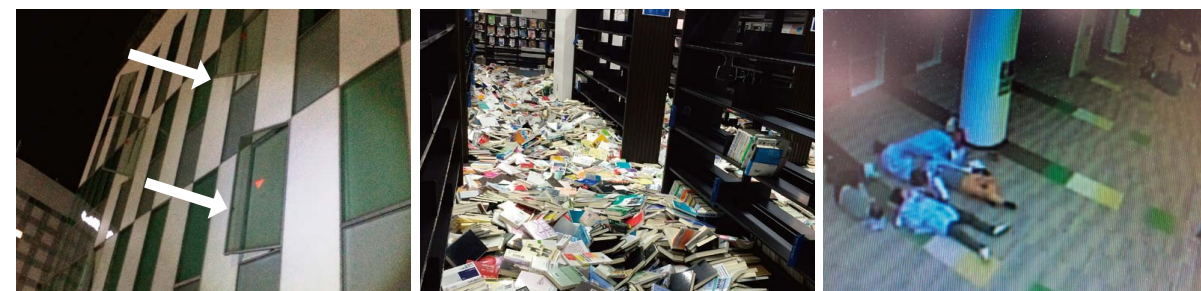
この日は偶然5階ホールの利用はなく、(参考:平成27年度ホール利用率82.2%)また会議室の18時から22時までの夜間区分利用は5階の多目的室での会議だけでした。ちなみに平日のプラザ閉館時間は2階観光・郷土情報センターが19時、3,4階図書館が20時、5階ホール、6階会議室と2階管理事務室は22時までで部門毎に閉館時間が違います。5階多目的室利用者が部屋を施錠して2階の受付に鍵を返却された時刻が21時前でしたので、それ以降館内にお客様は不在の状況でした。館内に残っていたのは管理事務室(受付女性1人、設備担当男性1人、管理事務男性1人)の3人、清掃担当の女性2人、合計で5人が勤務していました。地震時に、お客様が一人も残っていなかったのは幸運でした。ただ、もし多目的室を利用していた60名のお客様が22時前に退館された場合、管理事務室3人でお客を安全に誘導することができたのか?受付の女性は電話対応で動けない、設備担当は機械の異常信号やアラームに対応。管理の男性1人がお客を避難誘導する。消防避難訓練は毎年行っていますが、地震訓練は行ったことがなく、5階に行ってお客をどこへ避難させるのか?外への避難より館内が安全ではないのか?そして、5階ホールと6階会議室が使用中だったらどう対応していたのか?このことから、夜間は職員が少なくできることに限りがあり、最悪できないことを想定して準備しなければならないと感じました。

- ホールのお客様の避難誘導は主催者に事前に説明してお願いしなければならない。
- 6階会議室の利用者には避難経路図を事前に渡しておく。

最悪を予想しお客様自身で安全に避難できるマニュアルづくりが必要

地震直後、施設全体を管理している防災センターより「非常用窓が開いたので至急閉めるように。」と電話がありました。地震による振動で3階以上の消防隊非常用侵入口のガラス窓が一斉に開きました。次の大きな地震で開いた窓ガラスが割れると、階下の通行人に大ケガをさせる恐れがあるので男性職員2人で閉める作業を最優先しました。この間にも余震が続き、携帯電話の緊急地震速報が鳴りっぱなしでした。管理事務室の責任者として安否確認や緊急連絡をやらなければならないと思いますが、非常用進入口ガラス窓を閉めることが最優先で他になににもできませんでした。1人でも2人でも応援が欲しい中、地震直後に清掃の責任者が自宅から

かけつけてくれて、電話対応や避難者対応で応援してくれたのには本当に助かりました。



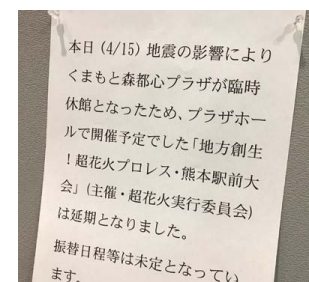
地震直後 消防進入口が一斉に開く

図書館の本はすべて落下

5階ホワイエに避難者

22時過ぎ近所のマンションの方々2階に避難して来られました。大きな余震も続いており近隣のホテルの宿泊者も避難して来られ80人くらいを受入れました。少ない職員で朝まで避難者対応やファンコイルユニットからの水漏れに対応したり、地震被害個所の確認を行いました。翌日の15日は臨時閉館になりました。

15日、ホール担当職員が出動し被災個所の確認、転倒・落下した倉庫の片付けを行いました。翌朝本震に見舞われました。



2階観光・郷土情報センターでの避難者受入状況(写真3点)

プラザホールの被災箇所



側面パネル落下

スピーカー脱落

客席最後部破損



移動観覧席 ベルト収納用ドラムの破損

移動観覧席 ベルト破損

移動観覧席 支柱のゆがみ

12.くもと森都心プラザ

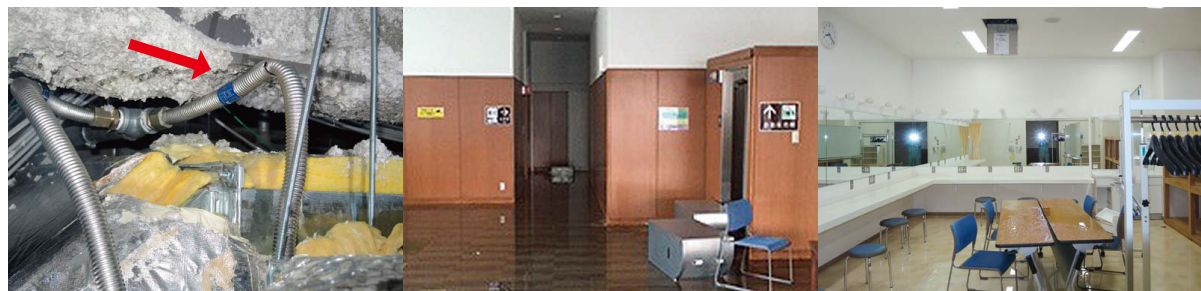


天井裏 吊り金具の損傷

舞台回り 照明、音響等各種機器の損傷(写真2点)



調整室、舞台倉庫 ピアノ脚破損 照明、音響等各種機器の損傷(写真3点)



5階ホワイエ天井スプリンクラー配管破損

控室ファンコイル配管から水漏れ(写真2点)

地震により建物全体・各備品にダメージ

- エスカレーター、エレベーターに異常。
- ホール・図書館用空調設備の冷却水パイプ等破断(建物全体)。
- 5階ホール、移動観覧席の内部骨組みが基礎から引き千切れる。
- // 天井反射板(自動変角式)を吊るワイヤーの滑車が破損。
- // 側反(観音扉式)が激しく揺られ歪み、開閉不可。
- // ホリゾン幕に破れ。
- // 客席吊天井を固定するボルトが多数破断。天井板落下の可能性有。
- // 客席床表面が浸水により変形。躯体には問題なし。
- 全館、壁・床にクラック。照明器具、エアダクトなどの破損。開閉不可の扉有。
- エレベーター一部動作不可。

3 避難所対応

震災直後の4月14日と15日は避難所を開設していましたが、16日の本震で5階天井スプリンクラーの配管が破損し、全フロアにわたり床が水浸しになったため避難所は閉鎖され、避難者は近くの熊本地方合同庁舎へ移動することとなりました。その後5月9日から2階の観光郷土情報センターが再び避難所になり1日約50名の方が利用されていましたが、館内空調故障でエアコンが利用できず暑さで熱中症の恐れが出たため、6月24日に避難所は閉鎖されました。

4 自主事業の開催

プラザホールは利用できませんでしたが、チャリティコンサートは6月11日1階交流広場で、演劇会は8月30日熊本市黒髪熊本市男女共同参画センターはあもにいで、落語会は10月21日2階イベントスペースに本格的な高座を設置して開催する等、開催場所を変えてチャリティイベントとして無料開催し、多くのお客様に楽しんでいただきました。3つのイベントでお客様から頂いた「熊本地震・復興義援金」は、合計で99,082円になり全額熊本市へ寄付しました。

毎年10月に開催してきた周年イベントの「秋まつり」は初めての取り組みとして、熊本朝日放送の「元気フェスタ」とJR熊本駅の「秋のみずほ祭り」と連動したイベントとして開催。3つのイベントで回遊性が生まれ、くもと森都心周辺に2日間でのべ6万人を超える来場者があり熊本駅前の賑わいづくりに貢献できました。



演劇会 熊本市男女共同参画センターはあもにい

チャリティ落語会 プラザ2階イベントスペース

秋まつり元気フェスタ プラザ1階交流広場

5 ホールオープンまで

平成28年
【4月～6月】

震災直後は施設利用を最優先で早期開館を目指しました。6階会議室は消防設備の異常がないことが確認され、トイレやエレベーター等一部は利用できませんでしたが5月6日から再開しました。ホールについては共同企業体として修繕の目処が立つ8月中旬の開館を目指しましたが、工事開始が不明で予約の利用者から「いつから使えるのか。」「いつからだと確実なのか。」といった問い合わせに対してハッキリ返答できず、ただ「もう少しお待ち下さい。」と、毎日謝罪の対応に追われました。

【7月】

7月7日に市担当課から「9月定例議会で復興工事予算が承認後、早期開館に向け調査・見積・契約し11月中旬から工事着工、来春3月31日竣工、4月1日再開をめざす。」と連絡を受けました。

12.くもと森都心プラザ

3月31日までの閉館が正式に決定し、利用予定者に利用中止の電話連絡を行ったところ、「新しい施設なので大きな被害は無く使えると思っていた。」「熊本市の他の施設もほとんど利用ができなく催し物を中止せざるをえない。」「大変な状況だが頑張ってください。」「多くの方々から励ましやねぎらいの言葉をいただき、遅れることなく工事が進むことを願いました。しかし、中には「電話一本だけで中止の連絡は納得できない。」「責任者に代われ。」「ポスター・チラシ製作の損害賠償を要求する。」等のクレームも受けたため、謝罪に出向く等理解と協力を求めました。中止による使用料の返還額は171件1,077万円に上りました。

【12月】

地震から7か月以上停止していたホールの利用予約受付を12月1日に再開しました。地震によるキャンセル対象の176団体には、11月24日に案内を郵送しました。4月利用のお客様16団体には「利用できます」という正式返答は平成29年1月末から2月頃になるという事で連絡しましたが、1件はそこまで待てないと言われキャンセルされました。12月1日から20日までの期間で、平成29年5月から12月までの8か月分の仮申し込みを行いました。重複予約をチェック後、12月22日に調整結果をファックスで連絡しました。

利用予約に並行して、地震による復旧改修工事が本格的に始まりました。毎週水曜日開催のプラザ定例役員会には、施工業者や市の担当課の出席のもと、工事の進捗状況と直近の作業工程の説明があり、情報交換を行いながら無事故で4月1日から開館できるように最大限の協力を行いました。

平成29年 【1月】

1月10日、今年5月から12月まで利用日程が重複になった65団体に対して、利用者を決定する調整会議を行いました。利用月毎、30分毎の会議の中の抽選で利用者を決定しましたが、平成30年1月までの土曜・日曜・祝祭日はほとんど埋まり、1日空きがある日は3日間だけで、約1年間の閉館にもかかわらずホール利用を待ち望んでご利用いただくお客様には本当にありがたい気持ちでいっぱいでした。

【2月】

2月1日、工事も順調に進み、ホールの4月1日再開が正式に発表されました。4月利用予定者に利用できることを連絡し、やっと皆さんに安心してもらうことができました。

2月3日には、平成23年10月のオープンから5年4か月で来館者500万人を達成し、500万人目の来館者に対して、熊本市長から証明書を贈呈しました。4月オープンを目指して復旧工事の真っ最中でしたが、県内3社のテレビニュースによる報道で面白い話題を提供することができました。



ホール床改修工事



ホール天井改修工事



1月10日調整会議



2月3日来館者500万人達成セレモニー

【3月】

平成28年12月から始まったプラザ災害復旧工事も、予定通り3月末で終わることができました。開館しながらの工事で安全面等で色々苦労がありましたが、工期内に無事故・無災害で竣工できたことを心より感謝しています。

プラザホールの利用拡大を図るため、3月9日に3万枚のチラシを新聞に折り込み、3月29日発行のミニコミ誌(リビング熊本)に4月1日全館オープンの記事を掲載しました。チラシや記事を見られた多くのお客様から「良かったですね。おめでとうございます」という感謝の連絡を頂き、本当に多くのお客様に励まされた1年間でした。これらのお客様の期待に添うべく、今後も愛されるプラザホールを目指して職員一同努力していきたいと思っています。



リビング熊本 4月1日号



チラシ

コラム

熊本地震と文化施設(くもと森都心プラザ編)

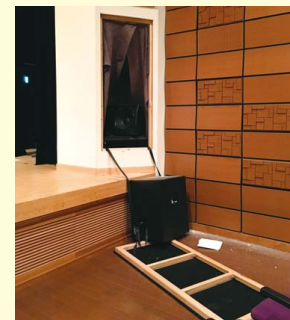
プラザホールの被害状況と対策

カラムスピーカー転倒!

プラザホールのカラムスピーカーが、地震の影響で転倒しました。スピーカーの設置は、スチール製の専用土台に配置し、ラッシングを行っていましたが、通常であれば、転倒する事など想定外でした。地震当時は催物がなかったため、ケガ人は出ませんでしたが、催物中であれば大事故に繋がります。スピーカーユニットを交換しました。今後の対策としては、転倒防止に内壁とスピーカーをアンカーボルトで固定することです。

バックヤード通路壁面ボード剥離!

プラザホールバックヤード通路の壁面ボードが、地震の影響で剥がれました。ボードが完全に剥がれて落下しなかったのが、事故にはなりませんでした。石膏ボードの脆さを確認することができました。対策として、石膏ボードを一部撤去し、新しい石膏ボードを設置したあと、壁紙を一部張り替えました。(渡邊 博士)



13.嘉島町民会館

(報告)増永 貴士

1 はじめに

嘉島町民会館は、保健・福祉の向上と教育・文化の重要拠点として、また、多目的ホールを中心として、公民館及び保健センター機能を併せ持った複合施設として平成26年3月16日にオープンしました。

熊本地震が発生するまでは、当館の消防計画に基づいて定期的に避難訓練を実施してきましたが、主に火災発生を想定した防火、避難訓練のみしか行っていませんでした。

しかし、今回の熊本地震を受けて、現在本庁と連携しながら危機管理マニュアルを策定中です。

2 被災状況と対応

4月14日の前震の際は、当館2階において、一般利用者による会議が終了し、階段を降りた直後に発生しました。当時は管理人1人が常駐しており、急いで会館の外へ一般利用者を誘導しました。

その後、10分程度で職員が会館に到着したものの、停電しており、非常灯のみが点灯していました。

直ちに情報収集及び本庁との連絡調整を実施し、災害対策本部からの指示により14日夜間から町民会館に避難所を設置しました。(保健センター、楽屋使用 約150名収容)

翌日に電気も復旧したため、引き続き避難所として開放。職員も交代で常駐しました。

しかし、16日の本震により公民館棟1階の正面玄関ガラス戸が一部破損、各会議室の壁面に多数のクラックが発生、また公民館棟2階の防災垂れ壁が破損し、1階に落下。吹き抜け部分の天井も衝撃により部分的に膨らんでおり、ホール棟内は設置してあった音響反射板の床設置面の固定金具が破損し、床面も損傷。さらに外構のタイル・アスファルトは、段差発生による破断・亀裂が生じたため、トイレの配水管が破損し、館内のライフラインがほぼ停止し、避難所として使用できなくなりました。

建物の躯体には大きな被害がなかったものの、安全確認ができなかったため、当面の間閉館を余儀なくされました。

その後の被害調査で開館までに最低半年の期間が必要であることが判明しましたが、比較的被害の少なかったホールだけでも使用できるよう、舞台機構・照明、下水管の復旧工事を優先させました(平成28年10月に舞台機構・照明、12月に下水管工事が完了し、無事に成人式を行うことができました)。

ホールの復旧により平成29年2月から4月まで開館することとしました(後に7月まで延長することに)。

その他の復旧工事については、平成28年度に本体と外構の設計委託、平成29年度に工事費を計上し、発注することとなりました。

今回の地震で、予約済みの催事は全て中止(112催事)。使用料の返還金は約300万円に上りました。

3 主な施設被害

(1)公民館棟内会議室等の壁面部、エントランスホール天井部が破損

今回の地震で、公民館棟内の事務室、会議室、図書室、保健センター、教育長室、トイレ、エントランスホール、廊下等の壁面に多数のひび割れが発生。2階大会議室の間仕切り用スライディングウォールのレールが破損しました。

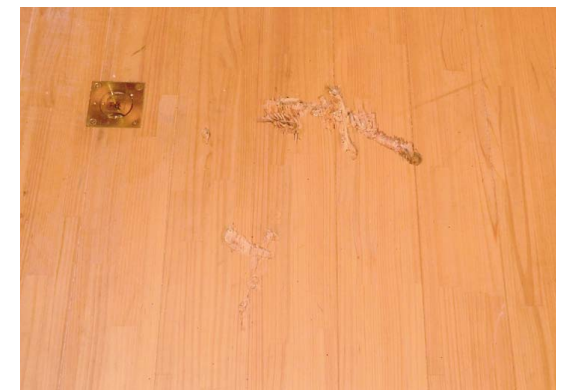
エントランスホールの天井も衝撃により膨らみが発生したため、安全確保のため応急的に落下防止ネットを設置しました。(平成29年度に復旧予定)



音響反射板サポートジャッキ破損

(2)ホール棟内舞台機構、照明等の破損

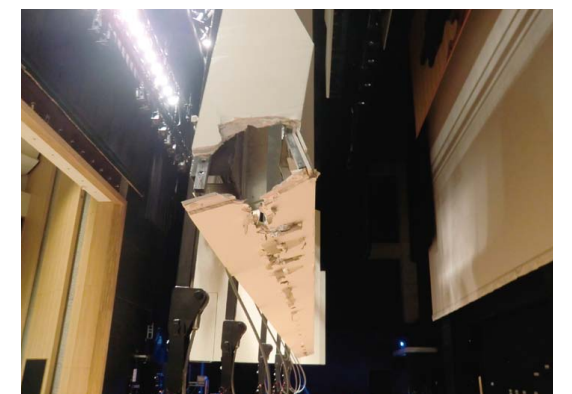
本震直後、設置してあった音響反射板床設置面の固定金具が衝撃により破損し、そのまま床に突き刺さっている状況。また、2階に設置してあった2台のピンスポットが転倒し破損しましたが、平成28年11月に修復しました。



音響反射板床設置面の固定金具破損によるホール床面損傷



北側エントランスホールガラス破損

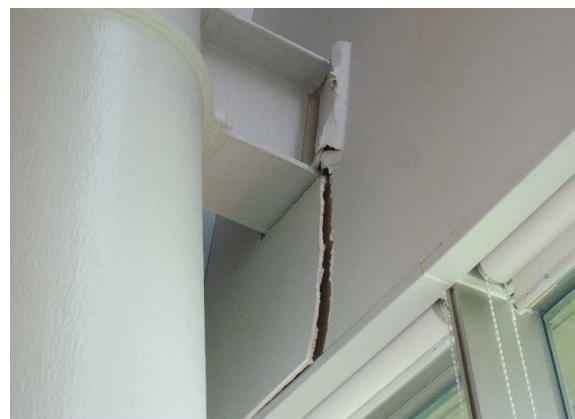


音響反射板化粧板損傷

13.嘉島町民会館

(3)建物部分と外構部分の段差による破損

建物の基礎部分と外構(盛土)部分の境で沈下による段差が生じ、下水管が17か所破損したため、大部分のトイレが使用できない状態になりました。しかし、平成29年12月に修復が完了し、使用できる予定です。



図書室壁ひび割れ



屋上エクステンションジョイント破損

(4)建物廻りの外構部分の全体的な沈下、北・南側入口のタイル等の破損、アスファルト舗装の亀裂



正面玄関アプローチ破損



正面玄関柱塗装剥離



南側大道具搬入口沈降

4 今後の復旧予定

(1)本格復旧

館内の危険個所の応急復旧及び下水管の復旧により一旦開館(平成29年2月から7月)したものの、建物・外構の復旧に平成29年8月から平成30年1月までの工期を要することとなりました。

(2)供用再開

平成30年3月の供用再開を目指し、職員・舞台技術者と再開に向けた打合せをしながら、危機管理マニュアル等を含めた運営体制を構築したいと考えています。

コラム

熊本地震と文化施設(熊本県立劇場編)

想定外の事態②

大量カビ!

閉館期間の長期化が想定されましたので、節約のため電気代の基本契約を減額変更しました。梅雨時から夏場に空調を入れなかったことから、劇場内の至る所の壁や柱・床に大量のカビが発生してしまい、開館前に全館クリーニングをすることとなりました。同時に、全職員で2日間かけて、ワックス掛けや衛生品の清掃を行いました。



天井に発生したカビ

バケツリレー!

館内のトイレは、そのほとんどを井戸水でまかっていますが、一旦屋上の高架水槽にポンプでくみ上げ、ここから全館に供給しています。(電気・ガスの)ライフラインは1週間である程度復旧しましたが、高架水槽が破損しトイレが使えない状況はお客様を迎えられないどころか、一番困ったのは、復旧にあたる職員でした。

最初は、毎日職員総出でバケツリレーにて給水を行っていましたが、その後、屋外消火栓から壊れた高架水槽へ給水しながら使用することになりました。

修復後、館内の配管に水圧を掛けたところ、水漏れ等の異常が確認されるなど、新たな破損個所の発見につながり修繕することとなりました。

高架水槽方式でなく、給水圧力ポンプ方式に変更して改修できれば早期復旧可能でしたが、復旧工事は原状回復が原則で、高架水槽を特注で製作したため、時間がかかりました。

(牛島 真吾)



高架水槽の破損

14.宇城市松橋総合体育文化センター(ウイングまつばせ)

(報告)内田 尊士

1 熊本地震発生

平成28年4月14日、熊本地震発生直後から通常の貸館業務を停止し、宇城市からの指示により避難所を開設しました。屋内だけに止まらず屋外にも多くの避難者が集まり一夜を過ごしました。

空調の配管が破損し、天井からの水漏れや館内のガラスに亀裂ができるなどの小さな破損はありましたが、大きく目立った被害はありませんでした。

そのあとの4月16日に震度6強(宇城市)の地震が発生し館内に避難していた人たちも全て外に出て、自衛隊から配給された毛布などを巻き、明け方近くまで屋外で避難をしていましたが、市職員と会館スタッフにより施設の安全を確認できたため、館内に移動することができました。

ただし、多くの人を収容することができるメインアリーナは、照明(水銀灯)の破損により落下の危険性があつたために、避難してきた人たちはロビーで過ごすこととなりました。

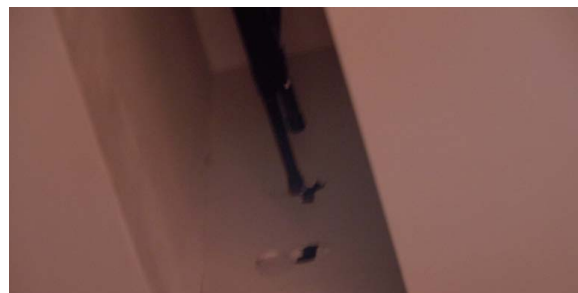
2 主な被害状況

【ライフライン】

- 電気:数回の停電があつたもののすぐ復旧し会館の電気設備には問題ありませんでした。
 - 水:地震発生直後は受水槽の水でトイレなどを使用することができていましたが、数日後には水が枯渇し、また供給される上水道の配管にも亀裂が発生し、館内の水が使えなくなっていました。
- また、宇城市内のいたるところでも水道管が破損しており、水を使うための制限や断水などがしばらく続きました。

【文化ホール】

舞台機構の吊物レールの歪みやホール天井裏の吊金具が落下したり、余震が続くこともあり復旧のめどが立たず無期限の使用停止が発表されました。



吊物レールによる天井壁破損



ガイドレールから外れた吊物ウェイト



吊り天井ジョイント金具の落下



天井裏の金具の破損

【メインアリーナ】

照明(水銀灯)の一部の電球が割れてしまい、落下の危険性や残りの電球も割れる可能性があるため立ち入り禁止となりました。



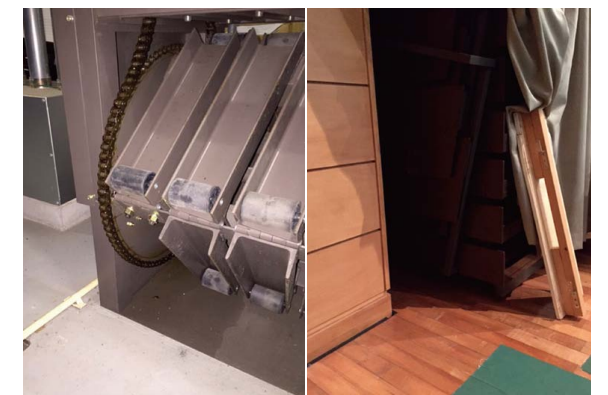
メインアリーナの照明の電球割れ



空調ダクト外れ

【コミュニティアリーナ】

可動席がフロー側へ移動しフレームの歪みが発生しました。また、照明のボルトの緩みも散見されました。



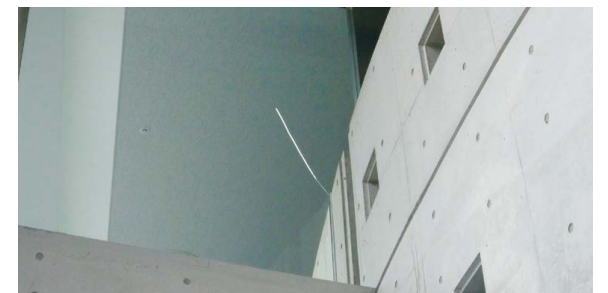
コミュニティアリーナ可動席フレームの歪み

【ロビー】

大きな被害はなかったが、ロビー床に細かい亀裂ができていました。



ロビー床ひび割れ



ホワイエ入口ガラスひび割れ

【玄関・屋外】

地震発生直後より徐々に正面玄関のアプローチや建物の周囲が、陥没するなど余震の影響により被害が大きくなっていました。



正面玄関のアプローチ陥没



屋外通路陥没

14.宇城市松橋総合体育文化センター(ウイングまつばせ)

3 被災後の動き

当会館は指定管理者による管理・運営ですが、地震発生直後より避難所を開設することとなり避難所の運営が行政主体となりました。そのため指定管理者としては、24時間体制での施設の安全管理や、行政と連携を取り、建物の損傷個所の調査や協議を行い、復旧工事の協力を行ってきました。

目まぐるしく時間は過ぎてゆき、余震も少しずつですが回数が減り始める中、現状復旧が進んでいき6月末をもって避難所は閉所され、7月12日より体育施設側や視聴覚室等の貸館業務を再開することとなりました。

文化ホールについても年が明けて平成29年1月から開館することができ、屋外の陥没個所の復旧工事についても平成28年度末をもって復旧することができました。



避難所駐車場



ロビーでの避難状況(写真4点)



メインアリーナ避難所



メインアリーナ避難状況



夜の避難状況

4 今後の検討事項

指定管理者として災害発生時のリスク分担や避難者受入等に関するマニュアルを策定することにより、事態への円滑な対応ができるのではないのでしょうか。

17. 熊本産業展示場 (グランメッセ熊本)

(報告)二子石 隆一

1 前震発生

2016年4月14日午後9時26分ごろ最大震度7の地震(マグニチュード6.5)が熊本を襲った。後に「前震」と呼ばれる最初の激しい地震である。益城町にある熊本産業展示場(グランメッセ熊本)の駐車場には、前震発生後まもなく近隣から数十台の車が避難、施設の建物ではガラスの破損や展示ホールの一部天井部材の落下等の被害が確認された。グランメッセ熊本は地震などの大規模災害発生時には、支援物資を送り出す「集積拠点」と位置付けられていたが、展示ホールの一部が「前震」で被災し、その務めをすぐには果たせぬ状態となってしまった。こうした中、被害が小さかった1階展示ホール入口のトイレを避難者へ開放、通信会社から提供された携帯電話用の充電器も設置した。「前震」で益城町は断水となったが、グランメッセ熊本ではトイレの洗浄水として雨水をタンクに、また上水も大型受水槽に蓄えがあり、口コミ等で「グランメッセは水が出る」との情報が広まり、その後少しずつ避難者が増えていった。

深夜には九州各県から駆けつけた警察、消防、自衛隊、国土交通省の各救助隊のため2階会議室を提供、ミーティングを終えた救助隊が次々に被災現場へと出動して行った。

15日未明には、支援物資の毛布や朝食のパン500個が到着、その後ペットボトル飲料などの物資が届き始め、職員が手分けして避難者に配布した。また地元益城町から熊本県に対しグランメッセ熊本を「避難所」として指定したい旨の要請があり、ほとんど被害が見られなかった2階のコンベンションホールを15日夕方から益城町の「臨時避難所」として正式に避難者を受け入れることに決定。数日間24時間体制のローテーション勤務を組んで、派遣された町職員とともに避難所運営にあたり、頻繁に発生する「余震」に怯えながら、地震の日も早い終息を待つことにしたのである。



前震でガラスが割れた南エントランス



前震による展示ホール内の被害



割れたレストランの食器類



支援物資の毛布を配布



駐車場に待機する国交省の車両

2 まさか…「本震」発生

4月15日夕方からグランメッセ熊本2階のコンベンションホールは、益城町の臨時避難所に指定され、約150人の避難者を受け入れた。その数時間後、16日午前1時25分ごろ、誰も予期しなかった2度目の「震度7」の地震が益城町を襲った。本震のマグニチュードは阪神大震災と同じ7.3、前震をはるかに上回る激しい揺れであったが、コンベンションホールの避難者は、指示に従って避難経路を落ち着いて移動、屋外の駐車場へ無事脱出した。この「本震」後はグランメッセ熊本の駐車場へ避難する車の数も一気に増え、2,200台収容できる駐車場が応援の緊急車両や避難の自家用車で満車状態となり、前日に届いた支援物資も午前中で底をついた。

グランメッセ熊本の建物も、ガラスの破損や天井パネル、照明などの落下、スプリンクラー破損に伴う浸水等と被害が拡大、素人目にも「復旧には数か月以上」とわかるくらいの状況で、県と協議のうえ建物への立ち入りを禁止せざるを得なくなった。これに伴い一番困ったのが数千人の「トイレ問題」で、選択肢は3つであった。

- 徒歩数分のところにある小学校(正式な避難所)の「仮設トイレ」
- 支援物資で配布中の「紙オムツ」
- 窮状を見かねた陸上自衛隊員が敷地隅の「草地に掘ってくれたトイレ」

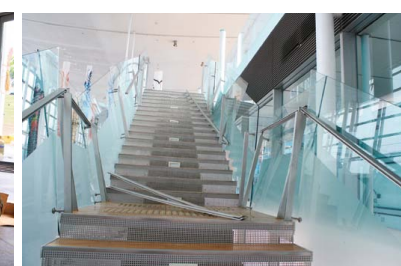
のいずれかで、当面乗り切ってもらうしかなかった。その日の夜に仮設トイレ7基が届き、数日後には政府からプッシュ型支援のトイレ約20基を受け、やっと「トイレ問題」に見通しがついたのである。



2階レストランから中央エントランスへ割れ落ちたガラス



1階ガレリアの状況



ガレリア階段の状況



芝生広場での給水支援と物資配布



臨時避難所となった2階コンベンションホール



陸上自衛隊による給水支援



政府からの支援による仮設トイレ



1階展示ホールの天井パネルや照明



1階展示ホールに落下した水銀灯カバー

17.熊本産業展示場(グランメッセ熊本)

3 避難者への対応、貸出予約はキャンセルへ

発災後、全国各地から支援物資を届けて頂いたが、本震後は建物への立ち入りが出来ず、物資を屋外にストックして避難者に配布するしか方法がなく雨天時の心配もあったため、取引先のイベント会社に「無期限でテントと照明の貸与」を依頼、地震から約1週間後に、やっとグランメッセ熊本芝生広場に3張りのテントが立った。このテントが数千人の避難者と向き合う窓口となり、物資の配布だけでなく、医療チームによる相談スペース、行政等からの情報提供、携帯電話の充電サービスなどの役割を約3か月担うことになる。当初は派遣された町職員と共同でテントの運営にあたっていたが、全国各地から炊き出し等の支援申し入れをいただくようになってからは、テントの運営は町に、グランメッセ熊本は炊き出しや慰問など対外的な交渉・調整や施設の維持管理などと役割分担した。雨天時にも利用できるよう炊き出しの際は、地震被害を受けなかった屋根付き駐輪場を調理スペースとして提供した。

グランメッセ熊本の駐車場は「本震」後、避難の車で埋まり数千人が「車中泊」を強いられ、エコノミークラス症候群等の重大疾患への罹患が心配された。このため医療チームによる聞き取り調査や体操指導が随時行なわれたほか、大型テントに機材を持ち込んで同症候群の簡易検査もグランメッセ熊本芝生広場で実施された。

県による施設の被害調査が進むにつれ復旧には長期間を要することがわかり、その間は施設の貸出ができないため、地震前から予約を受けていた利用者へ職員が手分けして連絡を入れ、被災状況の説明や予約のキャンセルについて了承いただく作業がしばらく続いた。



エコノミークラス症候群の簡易検査に並ぶ人々



芝生広場で開催されたこどもの日イベント



芝生広場の物資テント

4 益城町へ罹災証明書発行場所や福祉避難所として駐車場を提供

被災者が生活再建への支援措置等を受けるのに必要なものが「罹災証明書」である。益城町では役場が被災、町の他公共施設も避難所となったため、1万件を超える罹災証明書の発行場所となる適当な施設がなく、「グランメッセ熊本駐車場をぜひ貸して欲しい」と益城町から協力要請があり、南側駐車場内に大型テントを設置し罹災証明書発行のための臨時役場機能が設けられた。また益城町では、全国から貸与されたトレーラーハウスを活用する「福祉避難所」をグランメッセ熊本駐車場に開設し、ボランティア団体が運営を担当した。乳幼児のいる家庭をはじめ避難所での集団生活が難しい人たちが対象で、トレーラーハウスによる「福祉避難所」は全国初の取り組みであった。約30台の車両に給電・給排水の工事を行なうとともに敷地内には大型の浄化槽3基を埋設、約100人が夏場の3か月間入居した。



駐車場に設置された益城町罹災証明書発行所



トレーラーハウスによる福祉避難所

17.熊本産業展示場(グランメッセ熊本)

5 復旧へ

当初熊本県からは「グランメッセ熊本の復旧・営業再開は2017年末ごろ」で、発災から2年近くかかるという見通しが示された。その間、大規模な展示会や商談会などの経済活動がストップすることになり、県内の経済界等から一日も早い復旧着工と営業再開を求める声が上がった。これを受け県では、工期の見直し等により当初見通しから半年前倒して「2016年度中に会議室等一部を再開、そして2017年7月の全面再開を目指す」との方針を2016年7月に発表、復旧費用も予算化された。

仮設住宅やみなし仮設住宅への入居が進み、車中泊やテント泊の避難者が退去した2016年9月からグランメッセ熊本の復旧工事に着手、まずは応急措置工事として、割れたガラスや落下物などを撤去したあと、第1期工事として応急に必要なるホールの補強等が行なわれた。その後第2期工事は、1階エントランスとガレリア、2階会議室、レストランなどの復旧と、コンベンションホールのLED照明化工事が行なわれ、2017年3月末から2階部分(レストラン、コンベンションホール、会議室)の営業を再開した。並行して進められた第3期工事は、1階展示ホール(8000㎡)の復旧で、館内には高さ10メートルを超える足場が各所に組み立てられ、照明や配管、天井部材の修復などが急ピッチで行なわれ、ほぼ当初の予定通りに6月末には「グランドオープンセレモニー」を開催することができた。

グランメッセ熊本が建設されて19年、しかも「震度7」の激しい揺れに2度も襲われたものの躯体自体に大きな損傷は無く、今回の復旧工事に当たっては展示ホールの四隅に「火打ち梁」と呼ばれる水平方向の補強鉄骨が新たに設置され耐震強化が図られたほか、天井パネルも従来の4分の1に軽量化、照明も「LED」に入れ替えて照度アップや調光が可能となり、安全性と利便性の向上を図っている。また熊本地震を風化させぬよう「施設の被害」「車中泊受け入れ」「炊き出し等の支援」「復旧工事」など“グランメッセ熊本のこの一年”を写真パネルで紹介するコーナーを設置し、来館者への防災意識の啓発を図っている。



1階展示ホール補強工事で設置された「火打ち梁」 2階コンベンションホールの復旧工事

1階展示ホール天井部分の復旧工事



1階ガレリアに組み立てられた工事用足場

グランドオープンセレモニーでのテープカット

6 災害に備えて

今回の熊本地震では、

- 1) 建物が被災し、物資集積拠点としての本来の役目を果たせず
- 2) 避難所ではなかった施設の避難所化
- 3) 災害時に、施設所有者(県)・指定管理者・地元自治体(町)との役割分担をどうするか…

など、いくつもの課題が出てきた。

グランメッセ熊本の指定管理者・熊本産業文化振興株式会社では「BCP(業務継続計画)」の策定と「災害時マニュアル」の見直しを進めるとともに、県内の主要な指定管理施設との連絡協議会を立ち上げ、熊本地震への対応を検証するとともに、今後の災害に備えるべく情報交換を進めている。このような課題が国にも伝わり、総務省からは熊本地震を受け「大規模地震に係る災害発生時における避難所運営を想定した指定管理者制度の運用について」の通知が各都道府県・政令市に出され、避難所運営の役割分担や費用分担などを予め協議し定めておくことなどを助言している。

万一大規模災害が発生した場合にグランメッセ熊本では、支援物資を送り出す集積拠点としての責務を果たすことはもちろんだが、「車中泊」による避難等も想定されることから、県・町との協議を早急に進め、今まで以上に地域貢献できるよう備える所存である。



グランメッセ熊本全景(航空写真)